

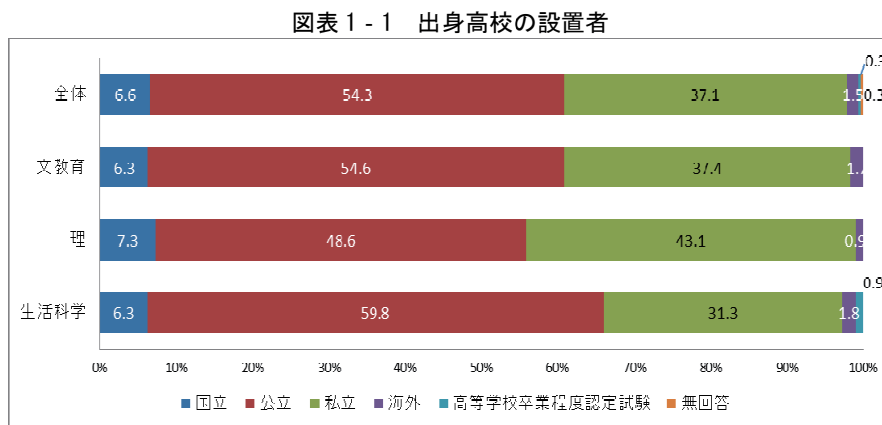
第1章 「新入生調査」の結果報告

(1) 出身高校

本節では、本学新入生の出身高校について、①設置者、②種類、③学科、④所在地から示していく。

①設置者

出身高校の設置者について、「国立」「公立」「私立」に加え、「海外」「高等学校卒業程度認定試験」別に示したものが図表 1-1 である。



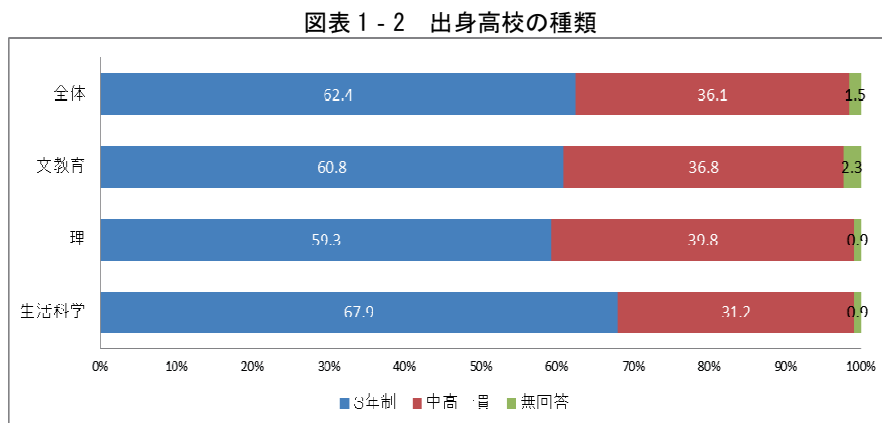
全体でみると、公立高校出身者 54.3%、私立高校出身者 37.1%、国立高校出身者 6.6% である。学部により、その傾向には多少の差異がみられ、全体に比べて、理学部では、公立高校出身者率が低く (48.6%)、生活科学部では高い (59.8%) ことが示されている。

平成 22 年度学校基本調査によれば、高等学校 (全日制・定時制、通信制、中等教育学校、特別支援学校を含む) 卒業者は、国立 0.3%、公立 68.1%、私立 31.6% であり、本学新入生は全国水準よりも公立高校出身者の比率が低いことが明らかである。

また、平成 22 年度に本学在学生を対象に実施した「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学の学部生は、公立高校出身者 57.3%、私立高校出身者 30.4%、国立高校出身者 4.8%、海外の高校出身者 1.2% であり (お茶の水女子大学 2011, P54)、今年度の入学者は、公立高校出身者の比率が低下していることがわかる。

②種類

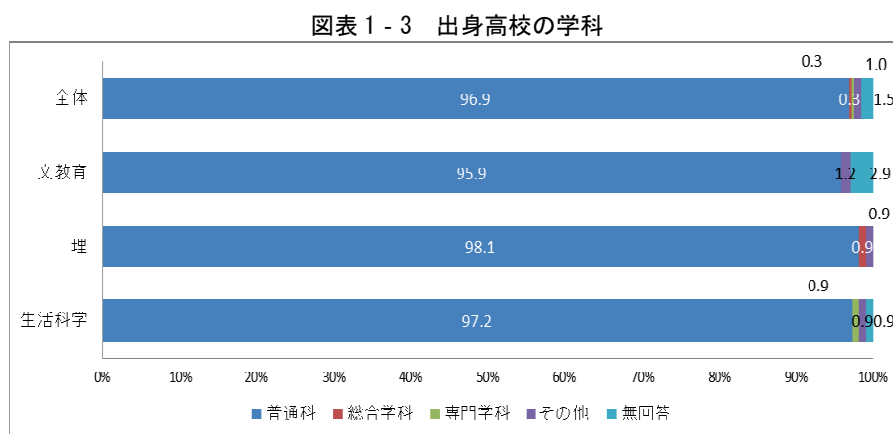
出身高校の種類について、「3 年制」「中高一貫」別に示したものが図表 1-2 である。



全体でみると、3 年制高校出身者 62.4%、中高一貫校出身者 36.1%である。学部により、その傾向には多少の差異がみられ、全体に比べて、3 年制高校出身者の比率が、理学部では低く（59.3%）、生活科学部では高い（67.9%）ことが示されている。

③学科

出身高校の学科について、「普通科」「総合学科」「専門学科」「その他」別に示したものが図表 1-3 である。



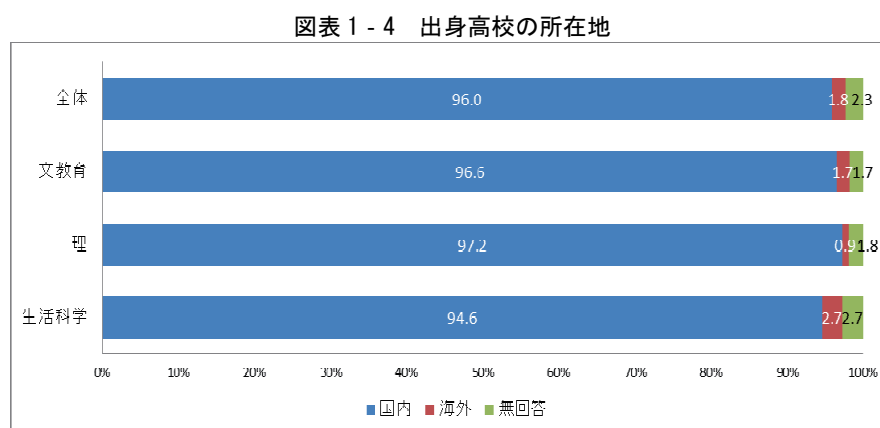
全体の 96.9%が普通科出身者であり、学部別にみても、その比率に大差はみられない。

平成 22 年度学校基本調査によれば、高等学校（本科）の生徒数を学科別にみると、普通科が最も多く 72.3%を占めているが、本学新入生に占める普通科出身者の比率とは大きな隔たりがみられる。

また、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学の学部生の出身学科は、普通科が 87.0%と最も多く、次いで普通系専門科が 5.4%であり（お茶の水女子大学 2011, P54）、今年度の入学者に占める普通科出身者の比率は 96.9%と、両者を合わせた比率よりも高いことがわかる。

④所在地

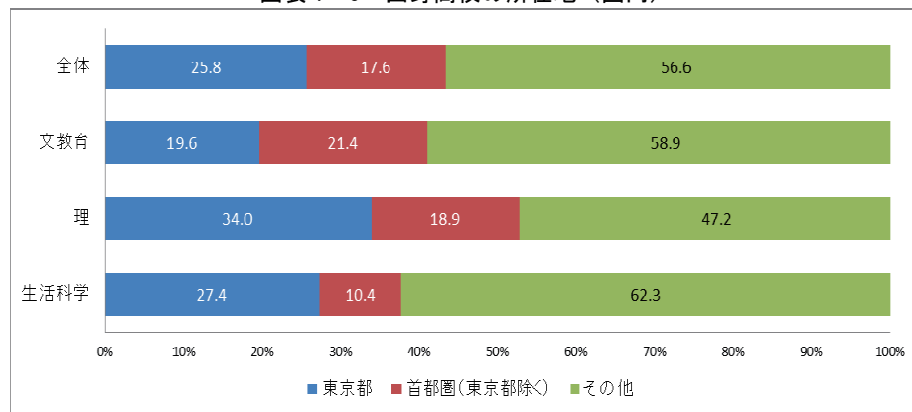
出身高校の所在地について、「国内」「海外」別に示したものが図表 1-4 である。



全体の 96.0%が国内の高等学校出身者であり、学部別にみても、その比率に大差はみられない。

さらに、「国内」と回答した者を対象に、その高校が所在する都道府県について、「東京都」「首都圏（東京都除く）」「その他」別に示したものが図表 1-5 である。

図表 1 - 5 出身高校の所在地（国内）



全体の 25.8%が本学の所在する東京都に所在する高校出身者であるが、理学部では 34.0%と他の学部比べて多くなっている。

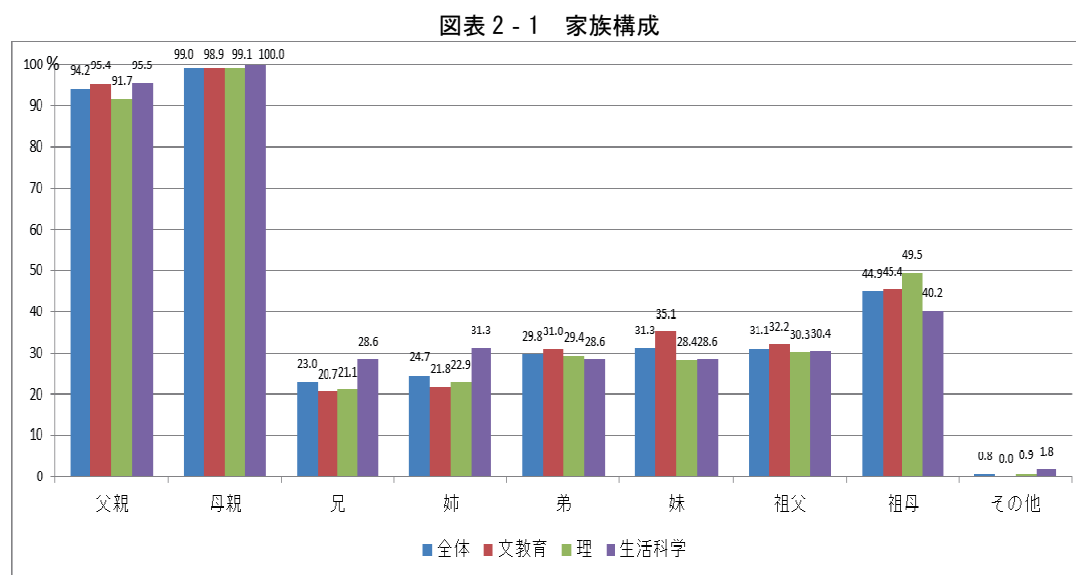
平成 22 年度学校基本調査によれば、大学への入学者数の「出身高校の所在地県」と「入学した大学の所在地県」との関係を見ると、「自県（大学の所在地県と同一県）内の高校から入学した者の比率」は 42.0%、女子に関しては 44.2%であり、本学新入生は、全国水準よりも自県内の高校出身者の比率が明らかに少ないことがわかる。

(2) 家族構成

本節では、本学新入生の家族構成について、①家族の構成、②兄弟姉妹の構成、③出生順位、④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数、⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数から示していく。

①家族の構成

本学新入生の家族構成（同居か否かを問わず）について、「父親」「母親」「兄」「姉」「弟」「妹」「祖父」「祖母」「その他」から、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 2-1 である。

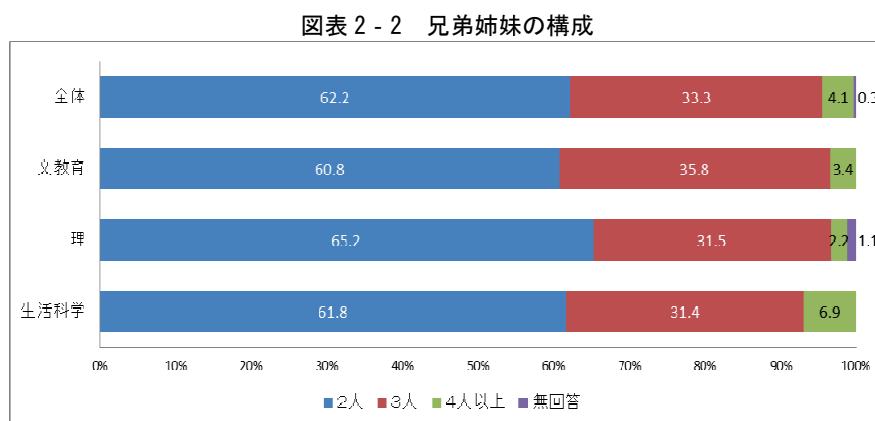


学部により、兄弟姉妹の構成には差異傾向がみられ、全体に比べて、生活科学部では、兄や姉の比率が高く（兄 28.6%、姉 31.3%）、文教育学部では妹の比率が 35.1%と高いことがわかる。

なお、兄弟姉妹がいない「一人っ子」は、全体の 14.4%であった。学部別でみると、文教育学部 14.9%、理学部 18.4%に比べ、生活科学部は 8.9%と少ない結果であった。

②兄弟姉妹の構成

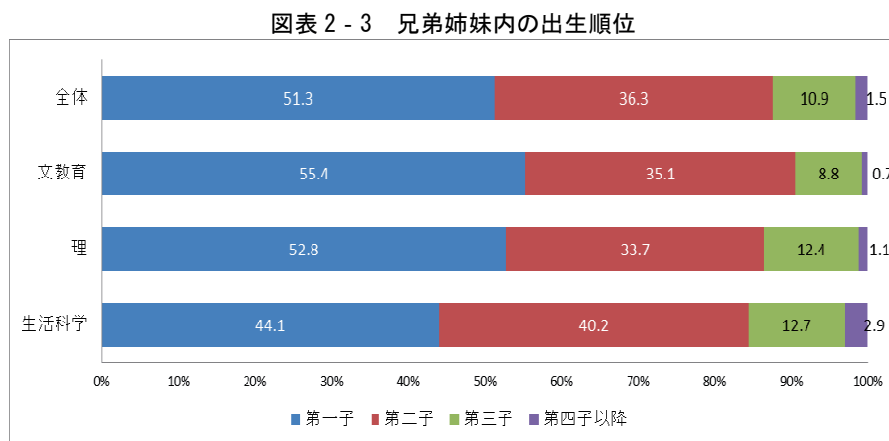
「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者（本学新入生の 85.6%が該当）に対し、その人数（自分も含めて）を尋ねた結果が図表 2-2 である。



全体で見れば、「2人」が62.2%と多くを占め、次いで「3人」が33.3%となっている。学部別にみても、その比率に大差はみられない。

③兄弟姉妹がいる中での出生順位

図表 2-3 は、同様に、「兄」「弟」「姉」「妹」いずれかに回答した者に対して、その構成内での出生順位について尋ねた結果である。

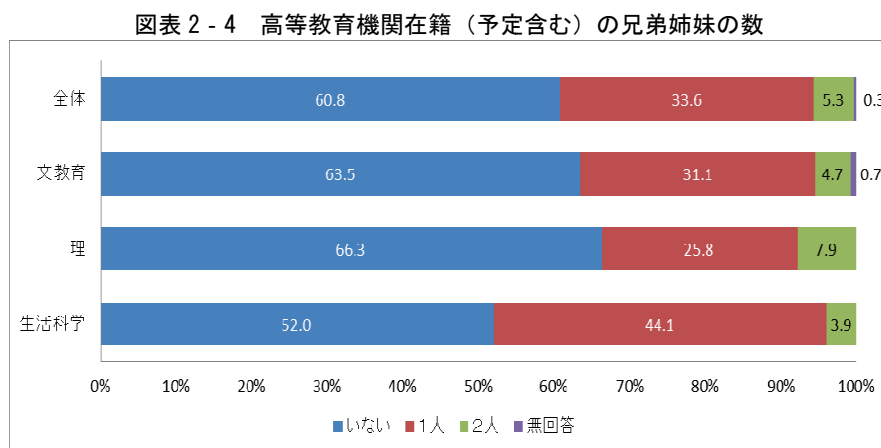


第二子以降の割合は、生活科学部で他の学部より多くみられた（「第二子」40.2%、「第三子」12.7%、「第四子以降」2.9%）。

また、全体で見れば、「第一子」は51.3%であり、「一人っ子」が14.4%であると考え合わせると、本学の新入生は、全体の65.7%が第一子であることがわかる。

④高等教育機関在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

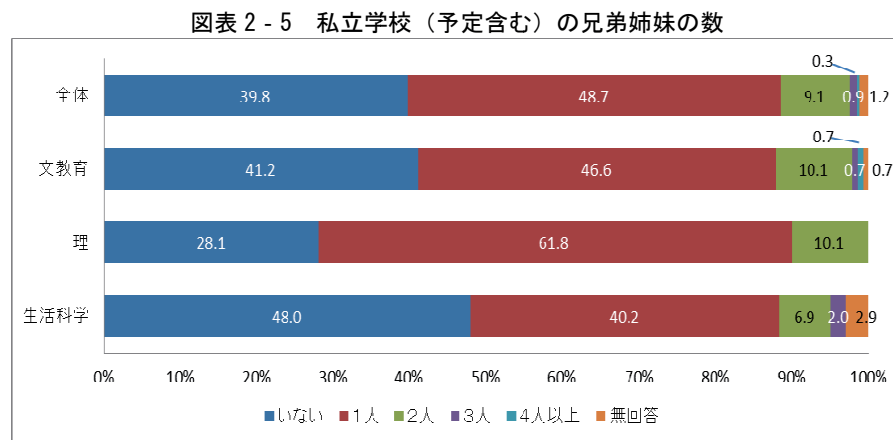
図表 2-4 は、同様に、大学（大学院）・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数について尋ねた結果である。



先に、第二子以降の比率は、生活科学部で他の学部より高いことを示したが（図表 2-3 参照）、生活科学部では、高等教育機関に在籍する（予定含む）兄弟姉妹が、回答者以外にいる比率も、他の学部に比べて高いことが示されている。

⑤私立学校在籍（予定含む）の兄弟姉妹の数

図表 2-5 は、同様に、私立の大学（大学院）・短期大学・高校・中学・小学校に正規の学生として在学する、または、来年度から進学予定の兄弟姉妹の数について尋ねた結果である。



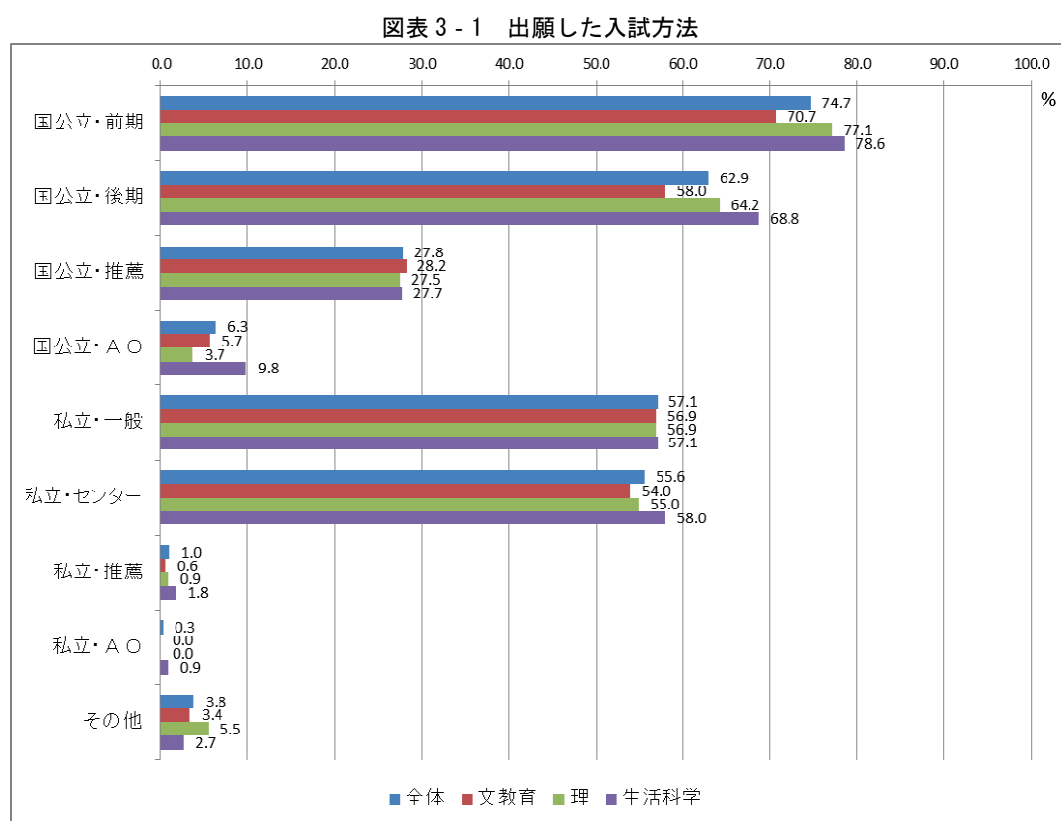
先に、理学部では、私立高校出身者の比率が全体に比べて高いことを示したが（図表 1-1 参照）、図表 2-5 からは、私立学校に通う兄弟姉妹が「いない」のは 28.1%と他の学部 に比べて明らかに少なく、兄弟姉妹も私立学校に通っている家庭が多いことがわかる。

(3) 本学への志望

本節では、本学新生の本学への志望について、①出願した入試方法、②本学以外に合格した大学・学部、③本学の受験を決めた時期、④本学の志望の度合、⑤本学を選んだ理由から示していく。

①出願した入試方法

本学新生が出願した入試方法（他大学も含めて）について、「国公立大学・前期日程」「国公立大学・後期日程」「国公立大学・推薦入試」「国公立大学・A0 入試」「私立大学・一般入試」「私立大学・センター入試」「私立大学・推薦入試」「私立大学・A0 入試」「その他」から、あてはまるものを複数回答可として尋ねた結果が図表 3-1 である。



全体でみると、国公立大学については、前期日程出願者 74.7%、後期日程出願者 62.9%、推薦入試出願者 27.8%、A0 入試出願者 6.3%である。また、私立大学については、一般入試出願者 57.1%、センター入試出願者 55.6%、推薦入試出願者 1.0%、A0 入試出願者 0.3%であった。

学部により、その傾向には多少の差異がみられ、文教育学部では、国公立大学・前期および後期日程の出願の比率が全体に比べて低いのに対し（前期 70.7%、後期 58.0%）、生活科学部では、国公立大学への出願の比率が、前期（78.6%）、後期（68.8%）、A0（9.8%）と全体に比べて高い傾向がみられる。また、生活科学部は、私立大学・センター入試の出願の比率も 58.0%と全体に比べて高い傾向がみられた。

②本学以外に合格した大学・学部

本学以外に合格した大学について 3 大学まで尋ね、延べ人数の上位 10 校を示したものが図表 3-2 である（合格大学の詳細は、付表 5 をご参照ください）。

図表 3-2 本学以外に合格した大学 (人)

全体 (550)		文教育学部 (237)		理学部 (149)		生活科学部 (164)	
早稲田大学	(66)	早稲田大学	(36)	東京理科大学	(32)	早稲田大学	(25)
明治大学	(66)	明治大学	(30)	明治大学	(20)	日本女子大学	(21)
立教大学	(58)	立教大学	(24)	立教大学	(18)	明治大学	(16)
日本女子大学	(40)	上智大学	(21)	日本女子大学	(11)	立教大学	(16)
上智大学	(38)	津田塾大学	(18)	津田塾大学	(9)	上智大学	(13)
津田塾大学	(37)	青山学院大学	(17)	青山学院大学	(6)	津田塾大学	(10)
東京理科大学	(37)	中央大学	(17)	東京農業大学	(6)	青山学院大学	(8)
青山学院大学	(31)	東京女子大学	(8)	学習院大学	(5)	中央大学	(7)
中央大学	(28)	日本女子大学	(8)	早稲田大学	(5)	慶應義塾大学	(6)
慶應義塾大学	(16)	法政大学	(8)	慶應義塾大学	(4)	東京農業大学	(6)
				上智大学	(4)		
				中央大学	(4)		
				東京女子大学	(4)		

全体でみると、早稲田大学と明治大学が 66 名と最も多く、続いて立教大学、日本女子大学、上智大学の順になっている。

学部別にみると、文教育学部では、早稲田大学が 36 名と最も多く、明治大学、立教大学と続いている。理学部では、東京理科大学が 32 名と明らかに多く、続いて、明治大学、立教大学の順となっている。生活科学では、文教育学部と同様に、早稲田大学が 25 名と最も多いが、それに、日本女子大学、明治大学と立教大学と続く結果となった。

同様に、本学の学部以外に合格した学部について 3 学部まで尋ね、延べ人数の上位 5 学部を示したものが図表 3-3 である（合格学部の詳細は、付表 5 をご参照ください）。

図表 3-3 本学以外に合格した学部 (人)

全体 (656)		文教育学部 (289)		理学部 (159)		生活科学部 (189)	
文学部	(118)	文学部	(98)	理学部	(54)	家政学部	(21)
理学部	(56)	学芸学部	(18)	理工学部	(26)	文学部	(20)
学芸学部	(37)	法学部	(16)	農学部	(16)	学芸学部	(10)
理工学部	(35)	経済学部	(11)	学芸学部	(9)	薬学部	(9)
農学部	(26)	現代教養学部	(8)	工学部	(6)	理工学部	(9)
				生命科学部	(6)		

全体でみると、文学部が 118 名と明らかに多く、続いて理学部、学芸学部、理工学部、農学部の順となっている。

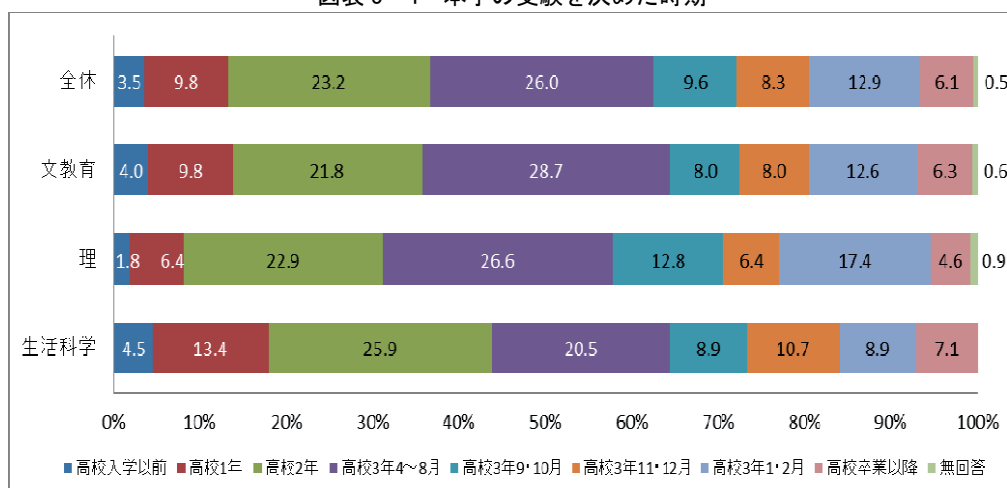
学部別にみると、文教育学部では、文学部が 98 名と明らかに多く、学芸学部、法学部が続いている。理学部では、理学部が 54 名と明らかに多く、続いて、理工学部、農学部の順となっている。生活科学では、家政学部が 21 名と最も多いが、続く文学部も 20 名となり、それに、学芸学部、薬学部、理工学部と続く結果となった。

③本学の受験を決めた時期

本学の受験を決めた時期について、「高校入学以前」「高校 1 年」「高校 2 年」「高校卒業以降」に加え、「高校 3 年」に関しては、その時期を「4～8 月」「9・10 月」「11・12 月」「1・2 月」に分けて尋ねた結果が図表 3-4 である。

全体でみると、「高校 3 年 4～8 月 (26.0%)」が最も多く、次いで「高校 2 年 (23.2%)」が多いことが示されている。

図表 3 - 4 本学の受験を決めた時期



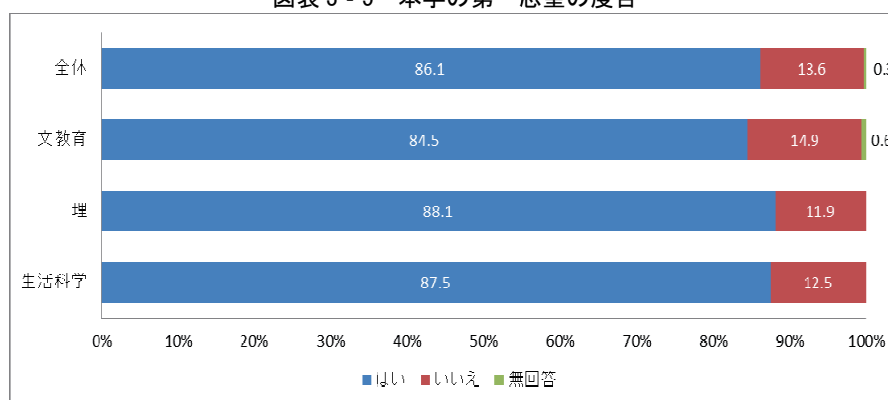
Benesse 教育研究開発センターが 2008 年に実施した「大学生の学習・生活実態調査」によれば (Benesse 教育研究開発センター2009, P42)、大学進学を意識し始めた時期は「高校 2 年生の頃」が最も多く、次いで「高校 3 年生の頃」である。本学新入生は、その時期にはすでに本学の受験を決めていた者が多く、全国水準よりも大学進学や受験校を選択・決定した時期が早いことがわかる。

ただし、学部により、本学の受験を決めた時期には多少の差異傾向がみられ、理学部では、「高校 3 年 4~8 月 (26.6%)」「高校 2 年 (22.9%)」に加えて、「高校 3 年 1・2 月」も 17.4%と多く、センター試験の結果をみてから、本学の受験を決めた者も目立っている。他方、生活科学部では「高校 1 年 (13.4%)」「高校 2 年 (25.9%)」といった早期の段階から、本学の受験を決めていた者も多くみられた。

④本学の志望の度合い

図表 3-5 は、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果である。

図表 3 - 5 本学の第一志望の度合

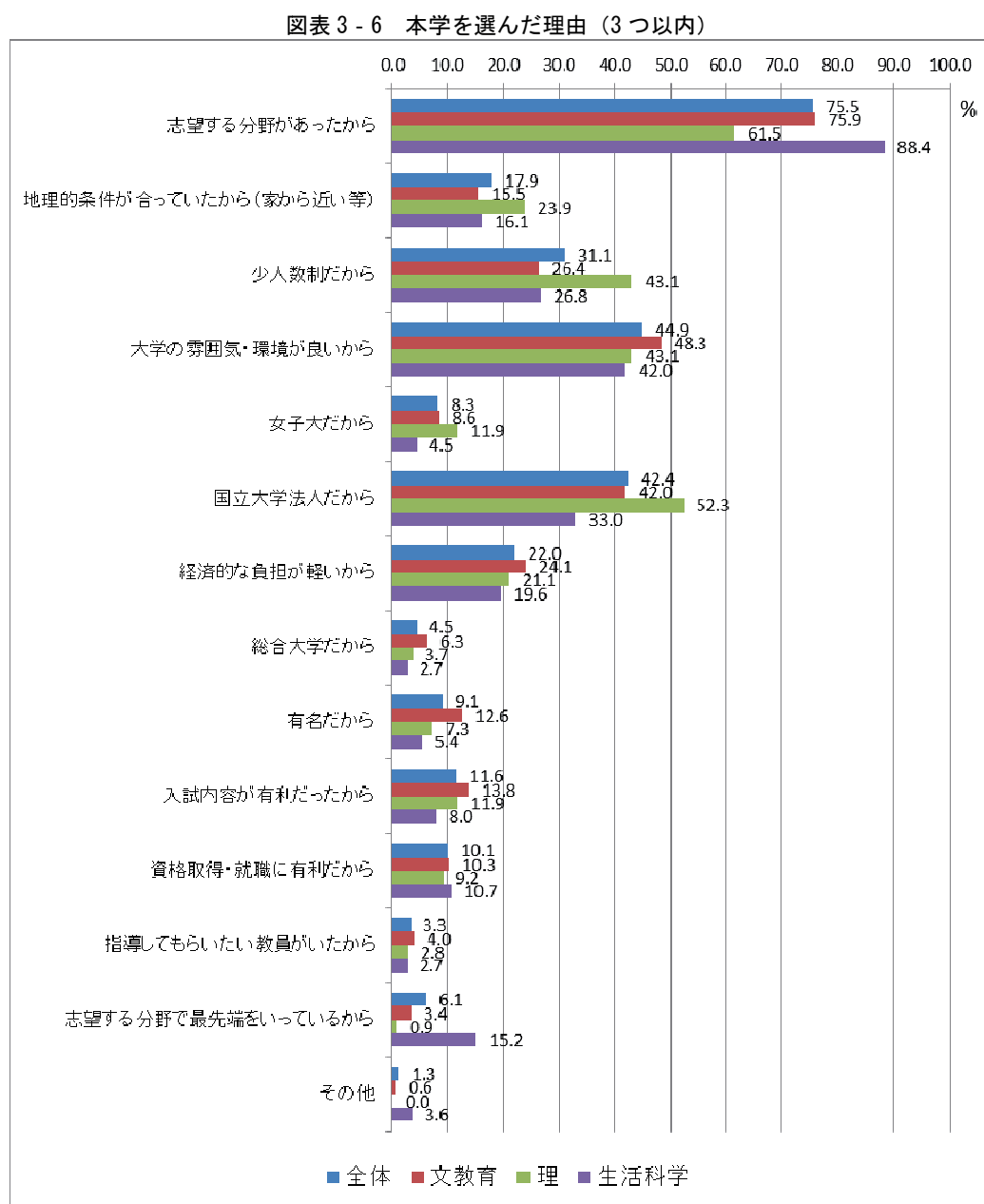


全体の 86.1%が、受験時には本学を第一志望としており、学部別にみても、その比率に大差はみられない。

「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学を第一志望として入学している学部生は、文教育学部 67.8%、理学部 52.8%、生活科学部 76.6%であり (お茶の水女子大学 2011, P56)、いずれの学部でも、平成 23 年度入学者の方が、本学を第一志望とする者の比率が高い結果となっている。

⑤本学を選んだ理由（自分の学力や入試の難易度以外）

図表 3-6 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、自分の学力や入試の難易度以外に、本学を選んだ理由について3つ以内の回答を求めた結果である。

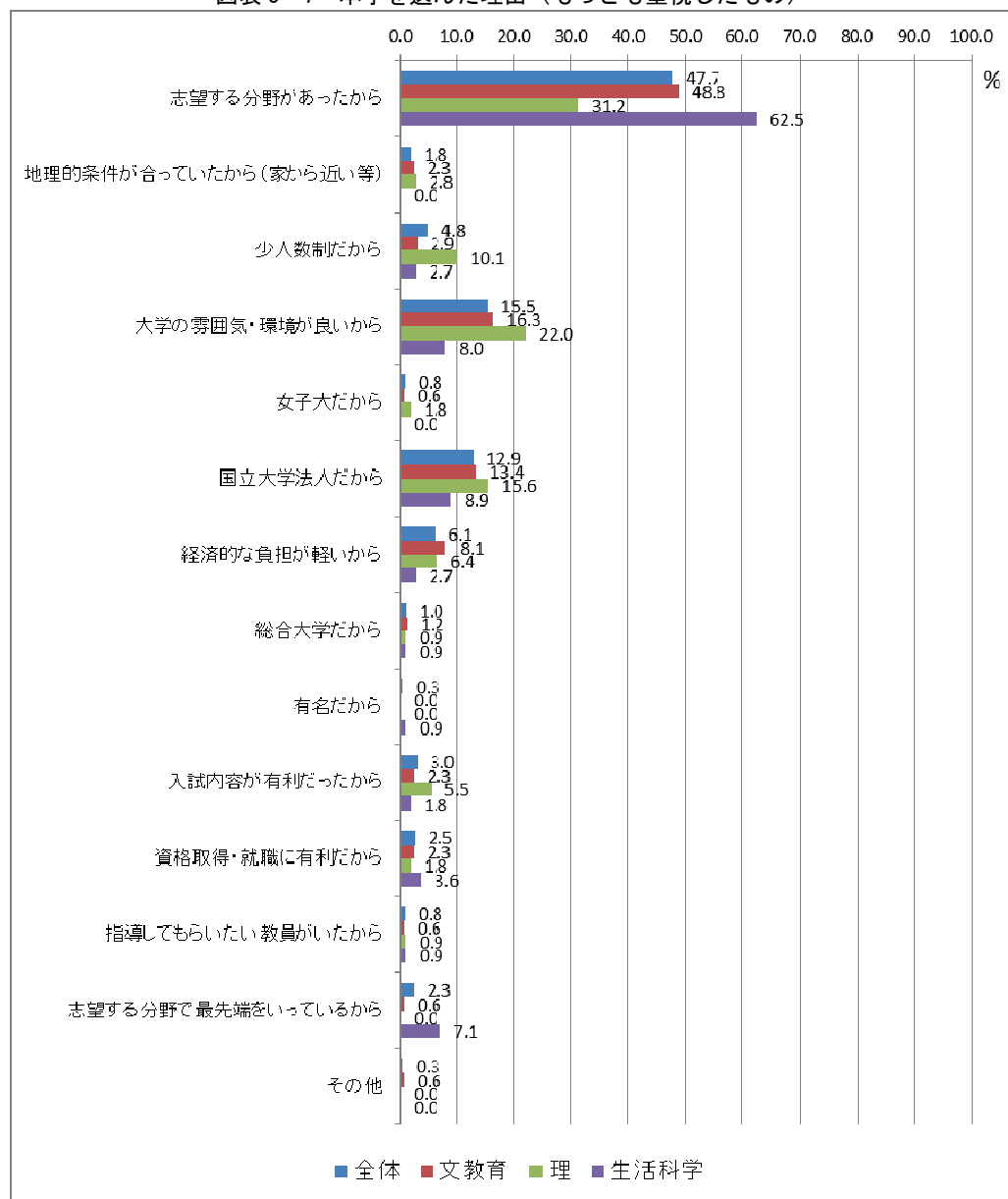


全体でみると、「志望する分野があったから」が最も多く（75.5%）、「大学の雰囲気・環境が良いから（44.9%）」「国立大学法人だから（42.4%）」が続く結果となった。ただし、生活科学部では、「志望する分野があったから」が他の学部に対しても明らかに多く（88.4%）、「国立大学法人だから」は少ない（33.0%）。逆に、理学部では、「志望する分野があったから」が他の学部に対しても低いのに対し（61.5%）、「国立大学法人だから」は多く（52.3%）、「大学の雰囲気・環境が良いから（43.1%）」よりも多い結果となった。

なお、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学を選んだ理由（多項選択・3つ以内）としては、「国立大学法人だから」が7割近くと最も多く、この傾向はいずれの学部でもみられる（お茶の水女子大学2011, P58-59）。先に、理学部では、「志望する分野があったから」が他の学部に対しても低いことを指摘したが、在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」でも同様の傾向が示されている。

さらに、図表 3-7 は、自分の学力や入試の難易度以外で本学を選んだ理由として、最も重視したものについて尋ねた結果である。

図表 3 - 7 本学を選んだ理由（もっとも重視したもの）



図表 3-6 同様、全体でみると、「志望する分野があったから」が最も多く（47.7%）、およそ半数を占めている。中でも、生活科学部では、62.5%と明らかに多い結果が示された。

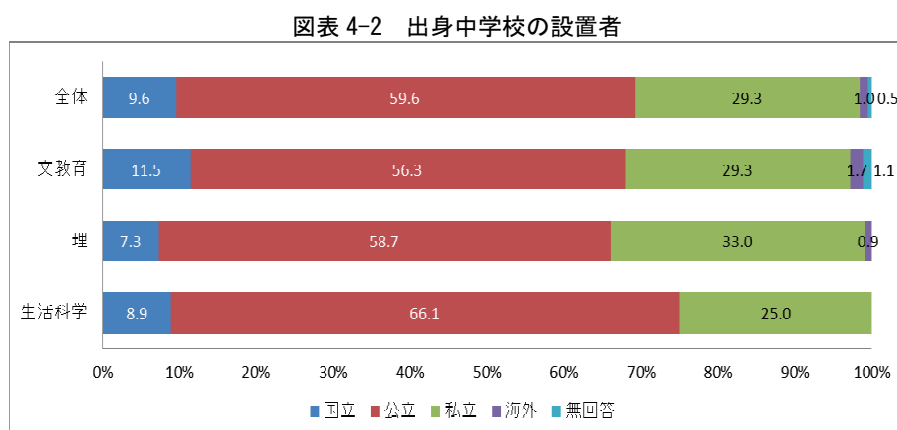
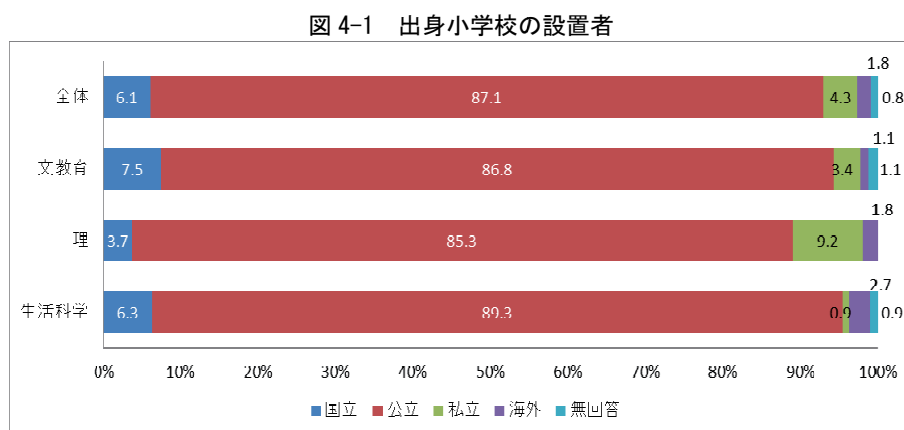
さらに、「大学の雰囲気・環境が良いから（15.5%）」「国立大学法人だから（12.9%）」が続く結果となっている。

(4) これまでの進路選択や学生生活

本節では、本学新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①出身小学校・中学校の設置者、②これまでの受験経験、③大学進学にむけての取り組み、④大学受験の対策として利用したもの、⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと、⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動から示していく。

①出身小学校・中学校の設置者

図表 4-1 は出身小学校の設置者について、図表 4-2 は出身中学校の設置者について、それぞれ「国立」「公立」「私立」「海外」別に尋ねた結果である。



全体でみると、公立小学校出身者が 87.1%、公立中学校出身者が 59.6%と最も多く、次いで私立、国立と続いている。学部別にみてもこの傾向に大差はみられない。

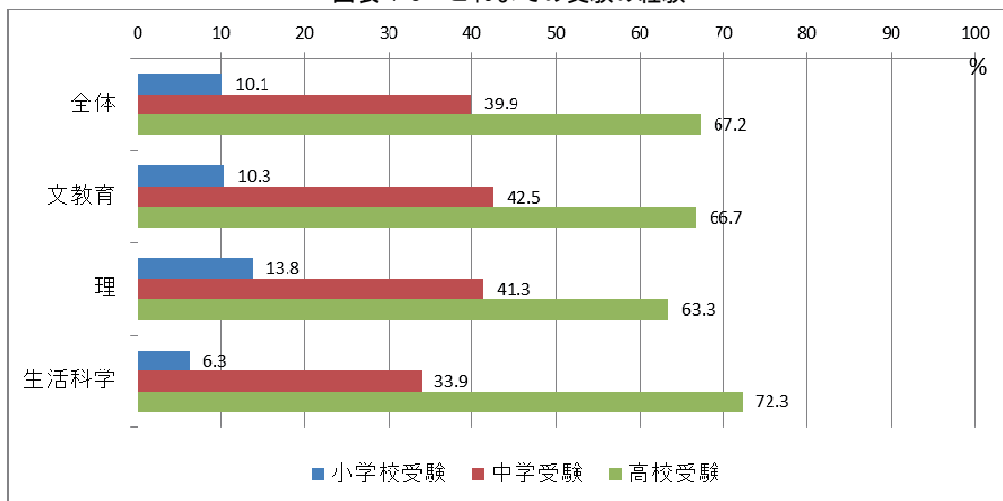
ただし、平成 22 年度学校基本調査によれば、小学校の児童数（全学年）の設置者別の比率は、国立 0.6%、公立 98.3%、私立 1.1%であり、本学新入生は全国水準よりも国立および私立小学校出身者の比率が明らかに高く、公立小学校の比率が低いことがわかる。

同様に中学校の生徒数（全学年）の設置者別の比率は、国立 0.9%、公立 91.9%、私立 7.2%であり、本学新入生は、小学校同様、全国水準よりも国立および私立中学校出身者の比率が明らかに高く、公立中学校出身者の比率は低いことがわかる。

②これまでの受験経験

図表 4-3 は、小学校・中学校・高校のそれぞれに入学するための受験の経験について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-3 これまでの受験の経験



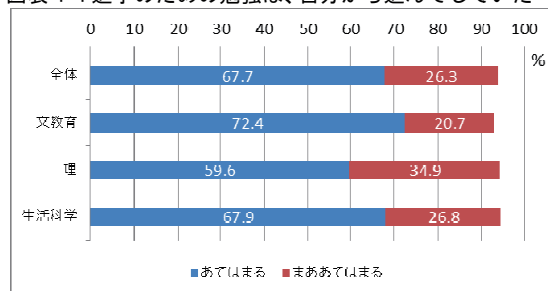
全体の 10.1%が小学校受験を経験し、39.9%が中学受験を経験しているなど、低年齢時での受験経験者が多いことがわかる。学部別にみても、その比率に大差はみられない。

「大学生の学習・生活実態調査」によれば (Benesse 教育研究開発センター2009, P40-41)、中学受験経験率は 18.8%、高校受験経験率は 86.3%であり、本学新入生の受験経験状況とは隔たりがあることがわかる。

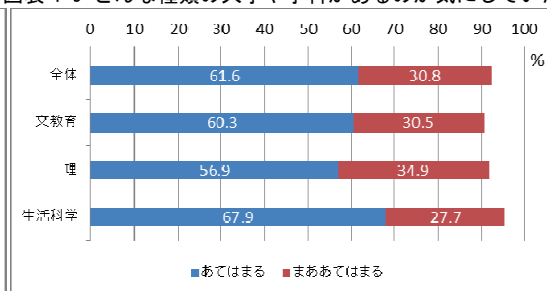
③大学進学にむけての取り組み

「大学進学にむけての取り組み」に関する 15 項目を設定し、それぞれについて 5 件法で尋ねた結果、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が 90%を超えている項目は以下の 7 項目であった。

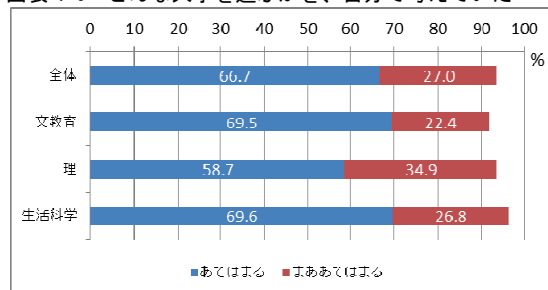
図表 4-4 進学のための勉強は、自分から進んでしていた



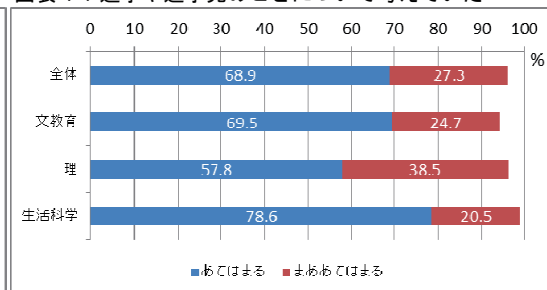
図表 4-5 どんな種類の大学や学科があるのか気にしていた



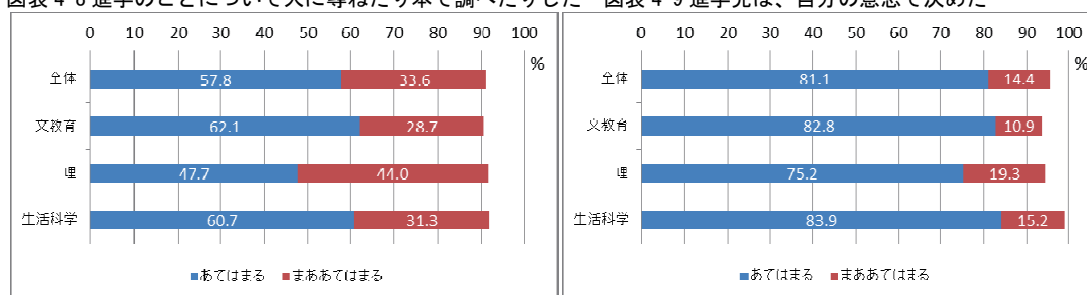
図表 4-6 どんな大学を選ぶかを、自分で考えていた



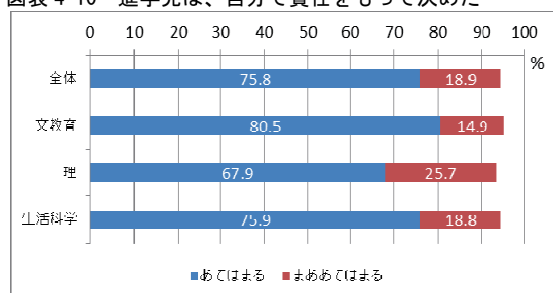
図表 4-7 進学や進学先のことについて考えていた



図表 4-8 進学のことについて人に尋ねたり本で調べたりした 図表 4-9 進学先は、自分の意思で決めた



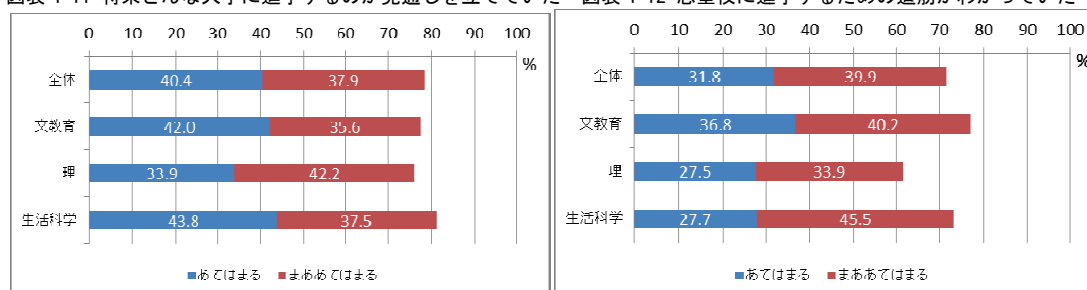
図表 4-10 進学先は、自分で責任をもって決めた



以上からは、本学の新入生は進学に対する関心が高く、その選択についての自律性も高い学生が非常に多いことがわかる。特に、文教育学部や生活科学部では、こうした傾向が顕著に示されている。

これに対し、全体での該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）が 80％に及ばない項目は以下の 2 項目であった。

図表 4-11 将来どんな大学に進学するのか見通しを立てていた 図表 4-12 志望校に進学するための道筋がわかっていた



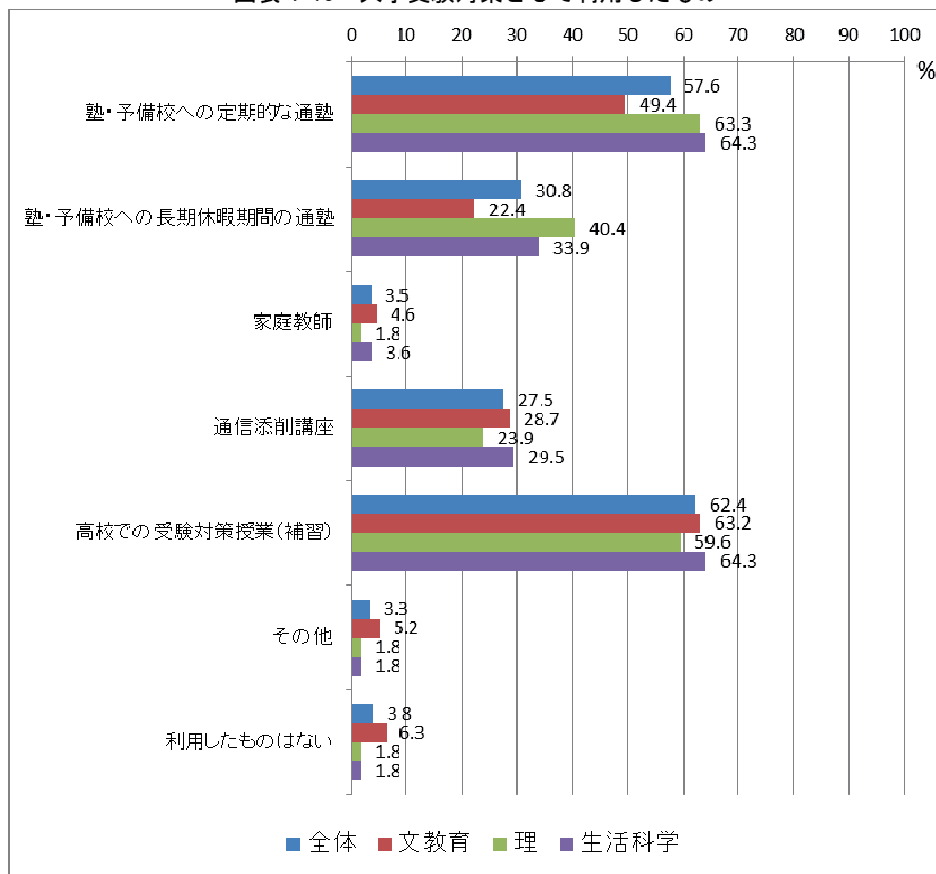
以上からは、本学の新入生は進学に対する見通しや道筋の理解が他の取り組みに比べて低いことがわかる。特に、理学部では、他の学部比べて、こうした傾向がより強く示されている。

④大学受験の対策として利用したもの

図表 4-13 は、大学受験の対策として利用したものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「高校での受験対策授業（補習）」が最も多く（62.4%）、「塾・予備校への定期的な通塾（57.6%）」「塾・予備校への長期休暇期間の通塾（30.8%）」「通信添削講座（27.5%）」が続く結果となった。ただし、文教育学部では、「塾・予備校への定期的な通塾（49.4%）」や「塾・予備校への長期休暇期間の通塾（22.4%）」が、他の学部比べて明らかに低い傾向がみられる。また、文教育学部は、「利用したものはない」が 6.3% と他の学部比べて明らかに高い傾向もみられた。

図表 4-13 大学受験対策として利用したもの



⑤高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在（調査時期の大学入学前年度3月）までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 4-14 である。

図表 4-14 高校卒業から現在までの間に経験したこと

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	0.5	0.3	11.9	0.8	74.2	12.6
文教育	0.6	0.6	8.6	1.1	74.1	14.9
理	0.9	0.0	9.2	0.9	82.6	7.3
生活科学	0.0	0.0	19.6	0.0	67.0	13.4

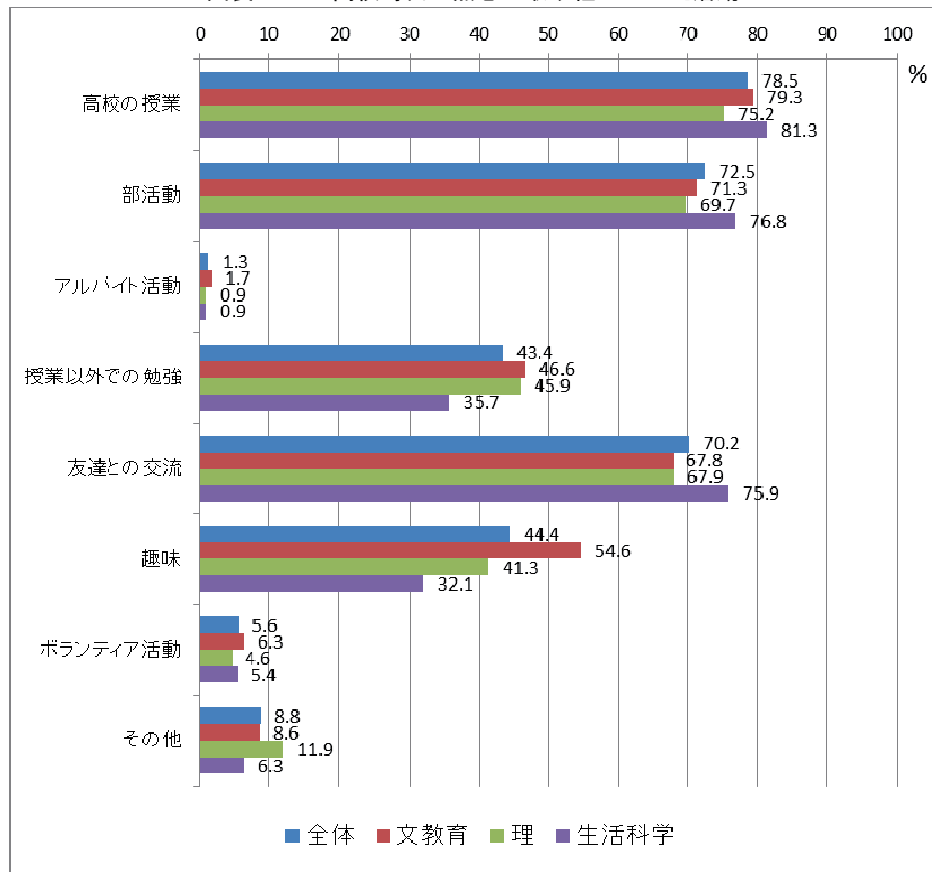
「浪人した」以外の項目は、いずれも全体の1%に満たない、ごくわずかな経験率であり、学部別にみても、大差はみられなかった。浪人経験者は、全体では11.9%であるが、学部により差がみられ、文教育学部8.6%、理学部9.2%に対して、生活科学部では19.6%に及んでおり、その経験率の高さが目立つ結果となった。

なお、「大学生の学習・生活実態調査」によれば（Benesse 教育研究開発センター2009, P26-27）、女子学生の浪人をした経験率は11.4%、フルタイムで働いた経験率は0.4%であり、本学新入生の状況と近いことがわかる。これに対し、他の高等教育機関に入学した経験率は3.2%、海外留学をした経験率は3.5%に及んでおり、本学新入生の経験率よりも明らかに高い。

⑥高校時代に熱心に取り組んでいた活動

図表 4-15 は、高校時代に熱心に取り組んでいた活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 4-15 高校時代に熱心に取り組んでいた活動



全体でみると、「高校の授業（78.5%）」「部活動（72.5%）」「友達との交流（70.2%）」が7割をこえている。これらの項目では、中でも、生活科学部が他の学部比べて高い傾向がみられた。

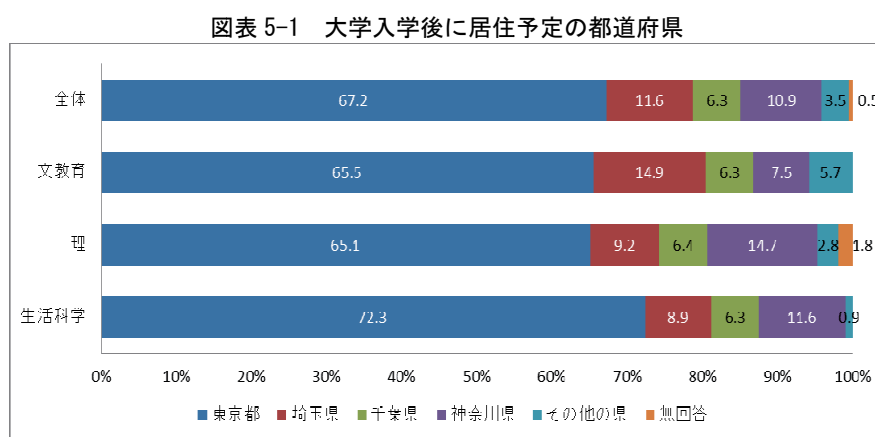
ただし、生活科学部では、「授業以外での勉強（35.7%）」や「趣味（32.1%）」においては、他の学部よりも明らかに低い傾向もみられる。

(5) 大学入学後の生活の予定

本節では、本学新入生の大学入学後の生活の予定について、①大学入学後の居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定額、⑤大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧奨学金・学費免除制度の認知、⑨本学の学生寮に対する認知、⑩大学生活での不安・心配事、⑪本学の学生支援活動への期待から多面的に示していく。

①大学入学後に居住予定の都道府県

図表 5-1 は、大学入学後に居住予定の都道府県を尋ね、本学の所在地である「東京都」、隣接している「埼玉県」「千葉県」「神奈川県」、「その他の県」別に示した結果である。



全体でみると、「東京都」が 67.2%と目立ち、「埼玉県 (11.6%)」「神奈川県 (10.9%)」「千葉県 (6.3%)」と続いている。学部により大きな差異傾向はみられないが、理学部では、「東京都」について「神奈川県」が多い結果となった。

先に、本学新入生のうち、「東京都」の高校出身者は 25.8%であることを示したが (図表 1-5 参照)、図表 5-1 の結果と考え合わせると、本学新入生は、親元を離れ、本学の所在地である「東京都」に居住する予定の者が多いことがうかがえる。

こうした点をふまえ、本学では、学内での支援のみならず、学外での生活等も視野に入れた支援が必要であろう。

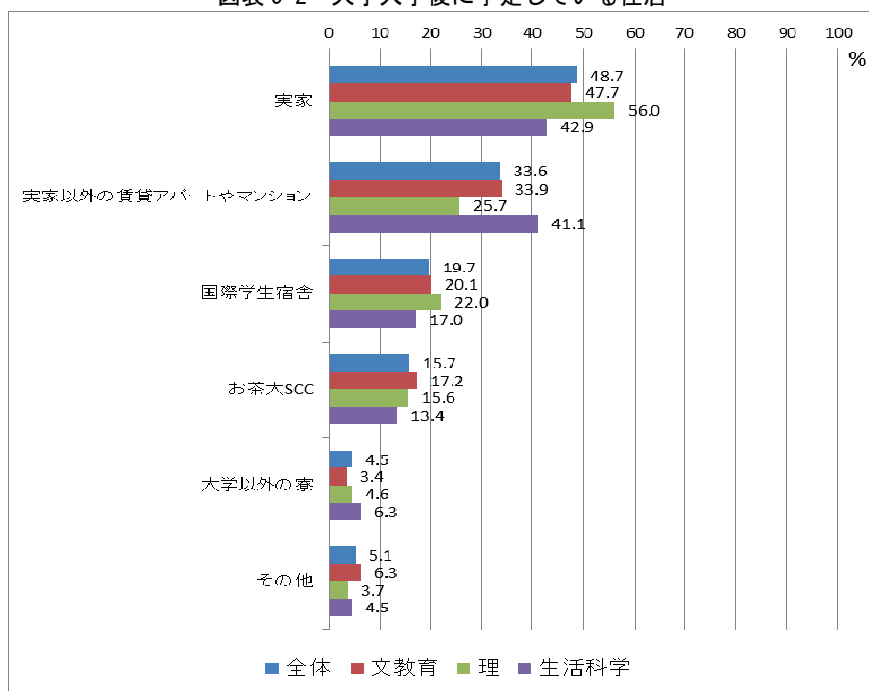
②大学入学後の住居の予定

図表 5-2 は、大学入学後に予定している住居について、「実家」「実家以外の賃貸アパートやマンション」に加え、本学の学生寮である「国際学生宿舎」「お茶大 SCC」、「大学以外の寮」「その他」の中から、複数回答可として尋ねた結果である。

全体でみると、「実家 (48.7%)」がおおよそ半数を占めており、次いで、「実家以外の賃貸アパートやマンション (33.6%)」、「国際学生宿舎 (19.7%)」や「お茶大 SCC (15.7%)」といった学生寮が続いている。

ただし、「実家」は理学部が他の学部比べて高く (56.0%)、「実家以外の賃貸アパートやマンション」は生活科学部が他の学部比べて高い (41.1%) 傾向もみられる。学生寮に関しては、学部による大きな差異傾向はみられなかった。

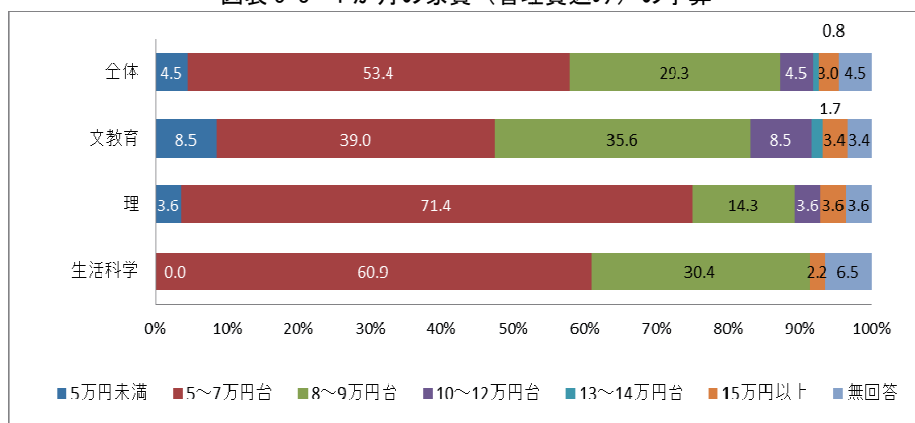
図表 5-2 大学入学後に予定している住居



③1 か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 5-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である。

図表 5-3 1 か月の家賃（管理費込み）の予算



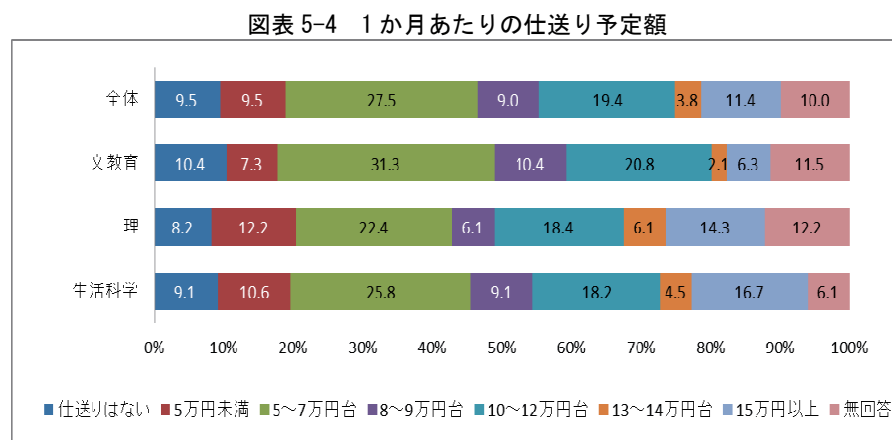
全体でみると、「5～7 万円（53.4%）」がもっとも多く、次いで、「8～9 万円（29.3%）」が続き、8 割以上が 5～9 万円を 1 か月の家賃として予定していることがわかる。

ただし、「5 万円未満」との回答も全体の 4.5%でみられ、文教育学部では 8.5%にも及んでいる。

なお、全国大学生生活協同組合連合会が 2010 年度に実施した「学生の消費生活に関する実態調査」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2011, P13）、下宿生のうち、1 都 3 県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）の 1 か月の住居費平均は 62,500 円であり、図表 5-3 で示した「賃貸アパートやマンション」に居住予定の本学新入生の家賃の予算と大きな隔たりはないことがわかる。

④1 か月あたりの仕送り予定額

図表 5-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である。



全体でみると、「5～7 万円 (27.5%)」がもっとも多く、次いで、「10～12 万円 (19.4%)」「15 万円以上 (11.4%)」が続いている。その一方で「仕送りはない (9.5%)」「5 万円未満 (9.5%)」といった回答も少なからずみられた。

また、「学生の消費生活に関する実態調査」によれば（全国大学生生活協同組合連合会 2011, P8）、下宿生のうち、仕送り「10 万円以上」は 31.7%と、この 10 年でほぼ半減している一方で、仕送り「0」の割合は 10.5%と引き続き 1 割を超えており、5 万円未満層も 25.4%と初めて 25%を超えている。本学入学生の状況も、ほぼ同様の状況であることが図表 5-4 からわかる。

こうした点をふまえると、本学でも、奨学金制度などの生活・経済的支援の充実は、従来にもまして、今後ますます必要ではないかと思われる。

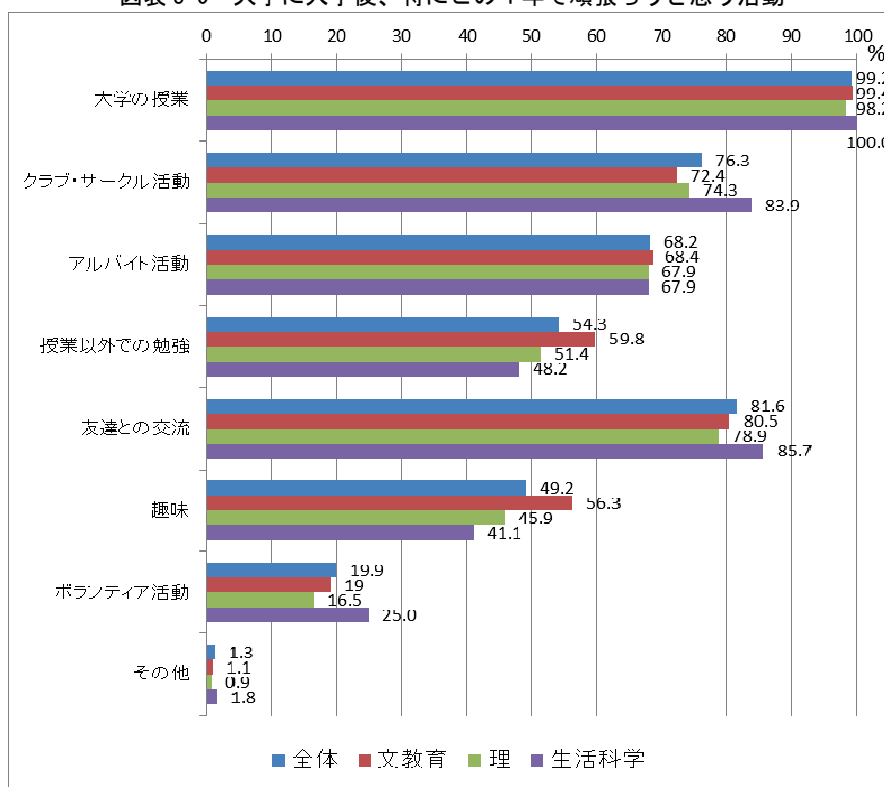
⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

図表 5-5 は、大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果である。

「大学の授業」は全体の 99.2%の学生が回答しており、学部別にみても、大多数の新生が「大学の授業」を頑張ろうと思っていることが示されている（文教育学部 99.4%、理学部 98.2%、生活科学部 100.0%）。

他にも、全体でみると、「友達との交流 (81.6%)」や「クラブ・サークル活動 (76.3%)」の回答率が高いが、これらの活動においては、他の学部比べて、生活科学部での回答率の高さが目立っている。その一方で、生活科学部では、「授業以外での勉強」や「趣味」についての回答率は低く、これらの活動においては、文教育学部の回答率の高さが示されている。

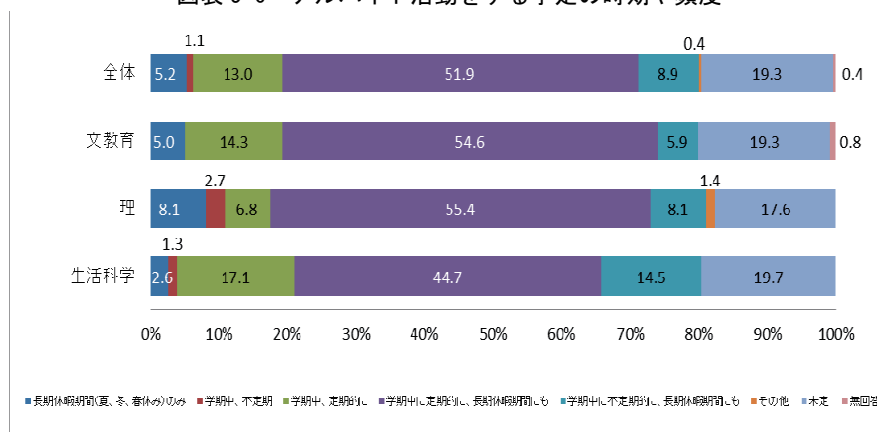
図表 5-5 大学に入学後、特にこの１年で頑張ろうと思う活動



⑥アルバイト活動の予定

図表 5-6 は、大学入学後のアルバイト活動をする予定の時期や頻度について、アルバイト活動をする予定のある者に対して尋ねた結果である。

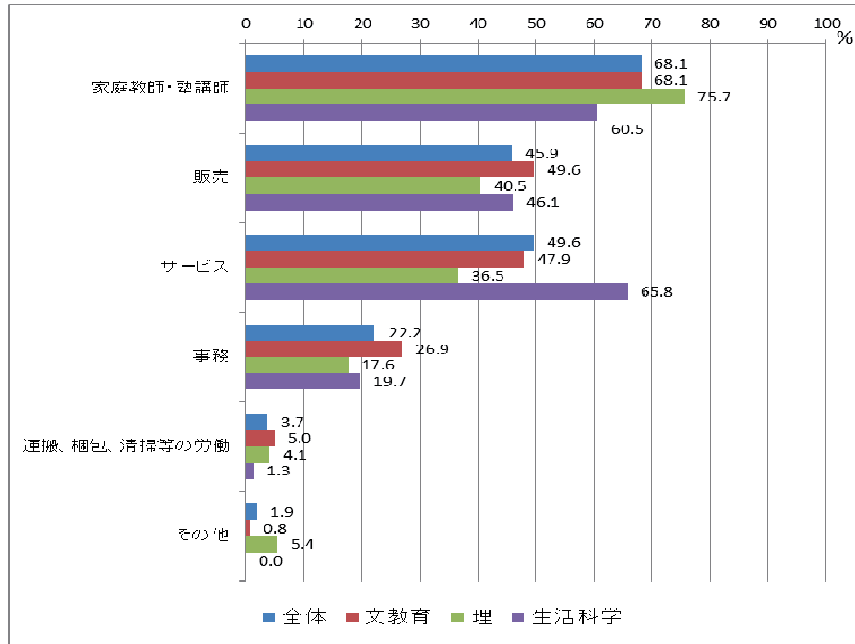
図表 5-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度



全体でみると、「未定」は全体の 2 割弱に過ぎず (19.3%)、「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」との回答が過半数を占めている (51.9%)。ただし、生活科学部での回答は、他の学部比べて低い傾向がみられた (44.7%)。

さらに、希望するアルバイト活動について、アルバイト活動をする予定のある者に対して、複数回答可として尋ねた結果が図表 5-7 である。

図表 5-7 希望するアルバイト活動



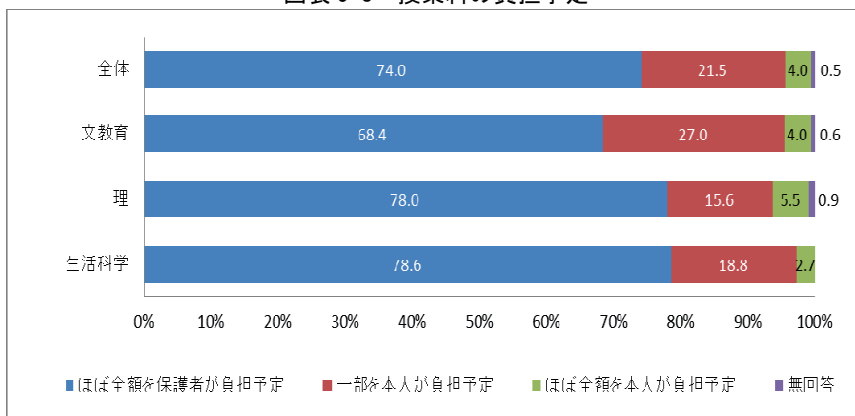
全体でみると、「家庭教師・塾講師（68.1%）」がおよそ7割を占めており、次いで、「サービス（49.6%）」や「販売（45.9%）」がおよそ半数に及ぶ結果となっている。

ただし、「家庭教師・塾講師」は理学部が他の学部比べて高く（75.7%）、生活科学部は60.5%にとどまっているのに対し、「サービス」は生活科学部が他の学部比べて高く（65.8%）、理学部は36.5%にとどまるなど、学部による差異傾向もみられた。

⑦授業料の負担予定

図表 5-8 は、授業料の負担予定について、「ほぼ全額を保護者が負担予定」「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」の中から尋ねた結果である。

図表 5-8 授業料の負担予定

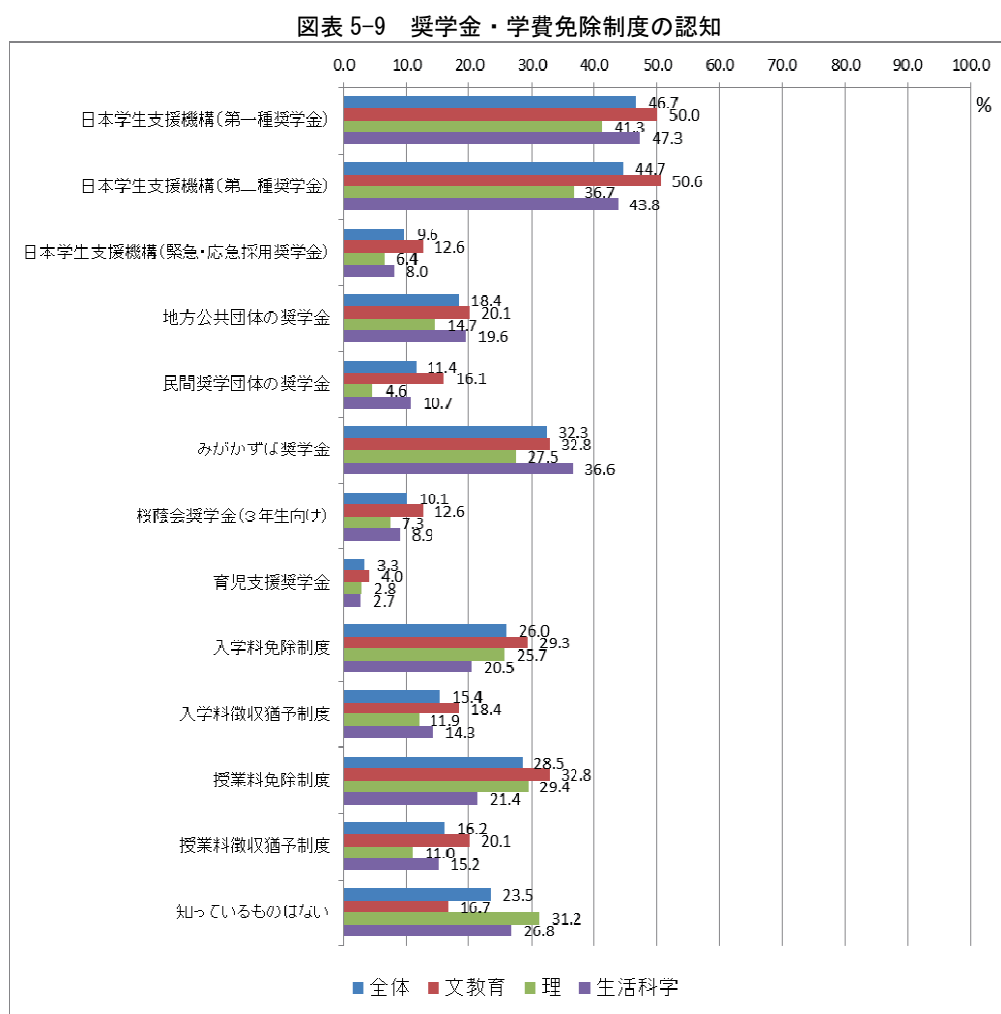


全体でみると、「ほぼ全額を保護者が負担予定」が74.0%と目立っており、「ほぼ全額を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」は4.0%に過ぎない結果となった。

学部により大きな差異はみられないが、文教育学部では、「ほぼ全額を保護者が負担予定」が他の学部比べて低く（68.4%）、「一部を本人が負担予定（奨学金等による負担含む）」が他の学部比べて高い（27.0%）傾向もみられる。

⑧奨学金・学費免除制度の認知

図表 5-9 は、奨学金・学費免除制度の認知について、本学独自の制度も含め、複数回答可として尋ねた結果である。



日本学生支援機構による奨学金の認知率は、第一種・第二種ともに、他の制度に比べて高く、全体のおよそ半数が認知していることが示されている（第一種 46.7%、第二種 44.7%）。ただし、文教育学部での認知率の高さに比べ（第一種 50.0%、第二種 50.6%）、理学部での認知率が低いなど（第一種 41.3%、第二種 36.7%）、学部によりその程度には差異傾向もみられた。

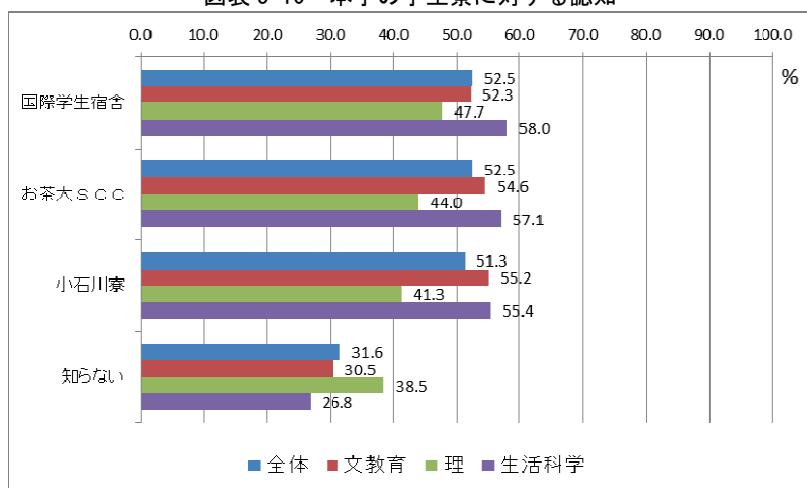
続いて認知率が高いのは、本学独自の奨学金として、今年度よりスタートした予約型奨学金制度である「みがかずば奨学金」であり、その認知率は、全体の 32.3%、生活科学部では 36.6%に及んでいる。

これに対して、「知っているものはない」との回答率は、全体の 23.5%であったが、学部により差異が大きく、文教育学部での回答率は 16.7%と低いのに対し、理学部での回答率は 31.2%に及ぶ結果となっている。

⑨本学の学生寮に対する認知

本学には、国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（1・2 年生対象）、小石川寮（院生対象）がある。図 5-11 は、これらの本学の学生寮に対する認知について、複数回答可として尋ねた結果である。

図表 5-10 本学の学生寮に対する認知

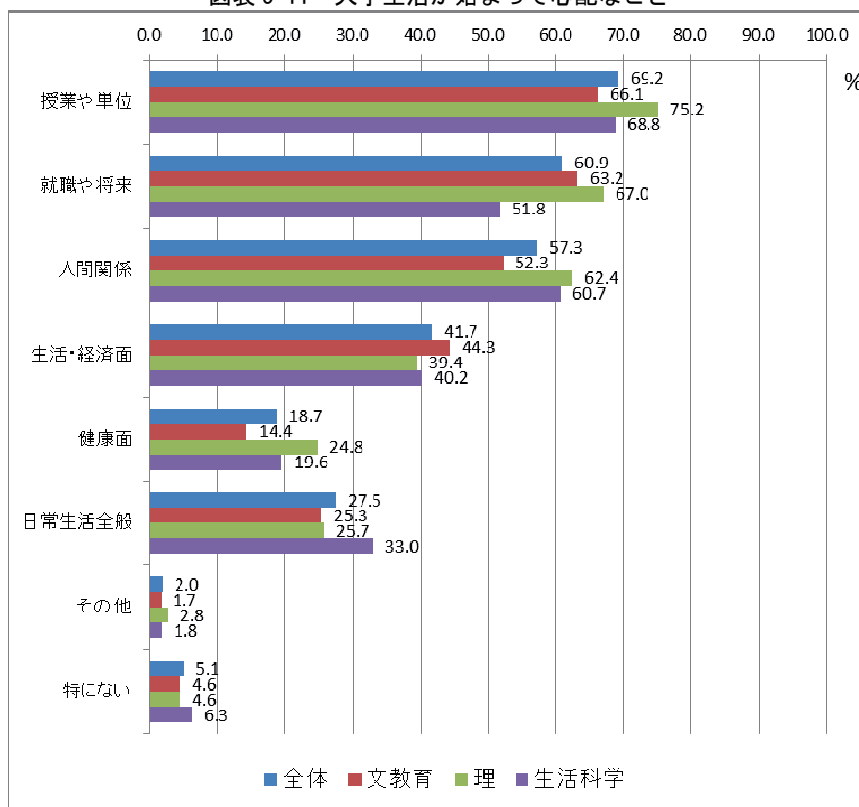


いずれの寮に対しても、認知の程度に大きな差異はみられず、およそ半数程度であることがわかる（国際学生宿舎 52.5%、お茶大 SCC 52.5%、小石川寮 51.3%）。いずれの寮でも、生活科学部での認知が高く、理学部での認知が低く、また、「知らない」の回答率は、理学部で高く、生活科学部で低い傾向がみられた。この傾向は、先の奨学金・学費免除制度に対する認知の状況からも同様にみられたものである。

⑩大学生活での不安・心配事

図表 5-11 は、全国大学生生活協同組合連合会が 2010 年に実施した「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 5-11 大学生活が始まって心配なこと



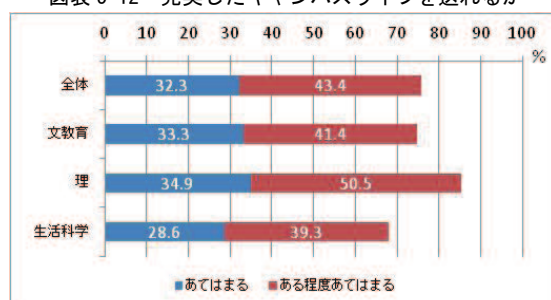
全体でみると、「授業や単位（69.2%）」「就職や将来（60.9%）」「人間関係（57.3%）」の順で多く、いずれの項目に関しても、他の学部比べて理学部で高い傾向がみられた（「授業や単位（75.2%）」「就職や将来（67.0%）」「人間関係（62.4%）」）。

なお、「特にない」は全体の5.1%に過ぎず、学部により大きな差異傾向もみられない。

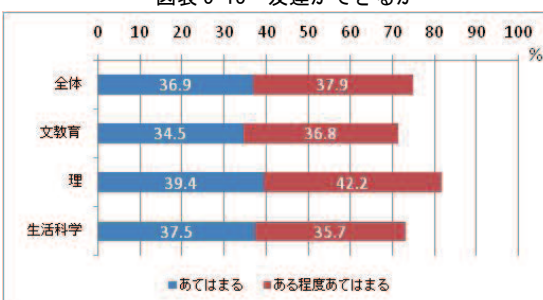
さらに、大学入学後の不安や心配事に関する8項目を設定し、それぞれについて4件法で尋ね、その該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）を示した結果が、図表5-12から図表5-19である。

全体でみると、「卒業後ちゃんと就職できるか（81.4%）」がもっとも多く、いずれの学部でもおよそ8割の該当率に達している。次いで、「授業についていけるか（80.3%）」「充実したキャンパスライフを送れるか（75.7%）」「友達ができるか（74.8%）」が続いている。これらの項目では、いずれも、理学部が他の学部比べて高い傾向がみられる。

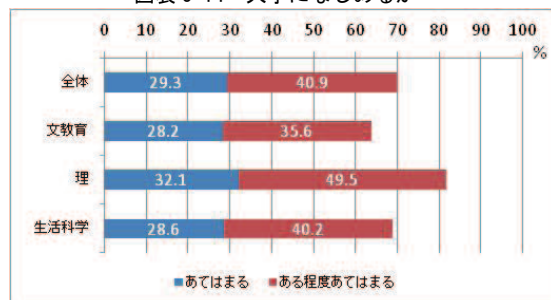
図表 5-12 充実したキャンパスライフを送れるか



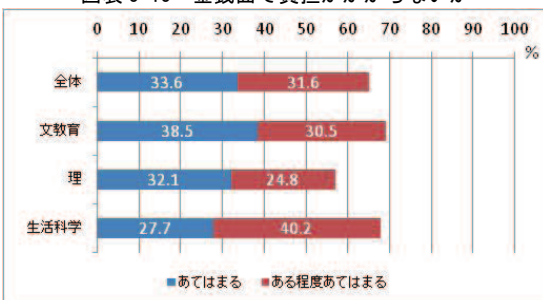
図表 5-13 友達ができるか



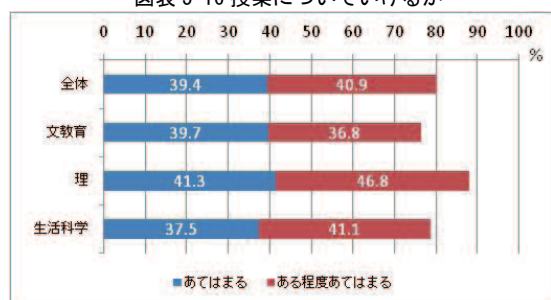
図表 5-14 大学になじめるか



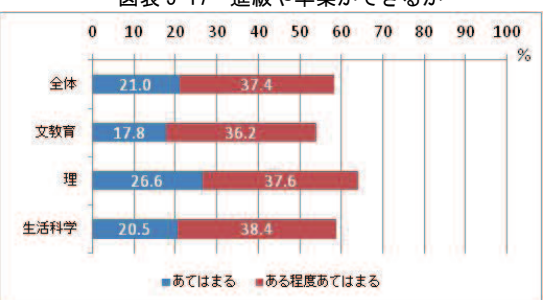
図表 5-15 金銭面で負担がかからないか



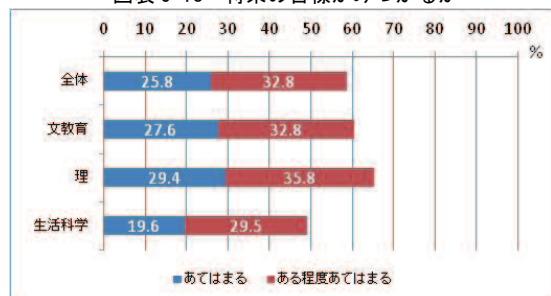
図表 5-16 授業についていけるか



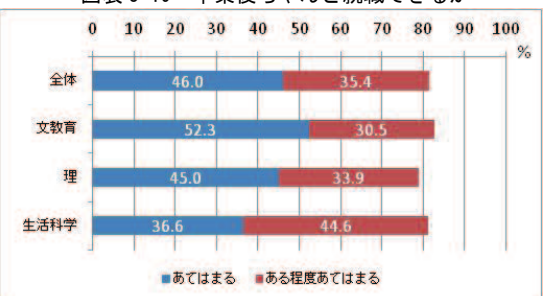
図表 5-17 進級や卒業ができるか



図表 5-18 将来の目標が見つかるか



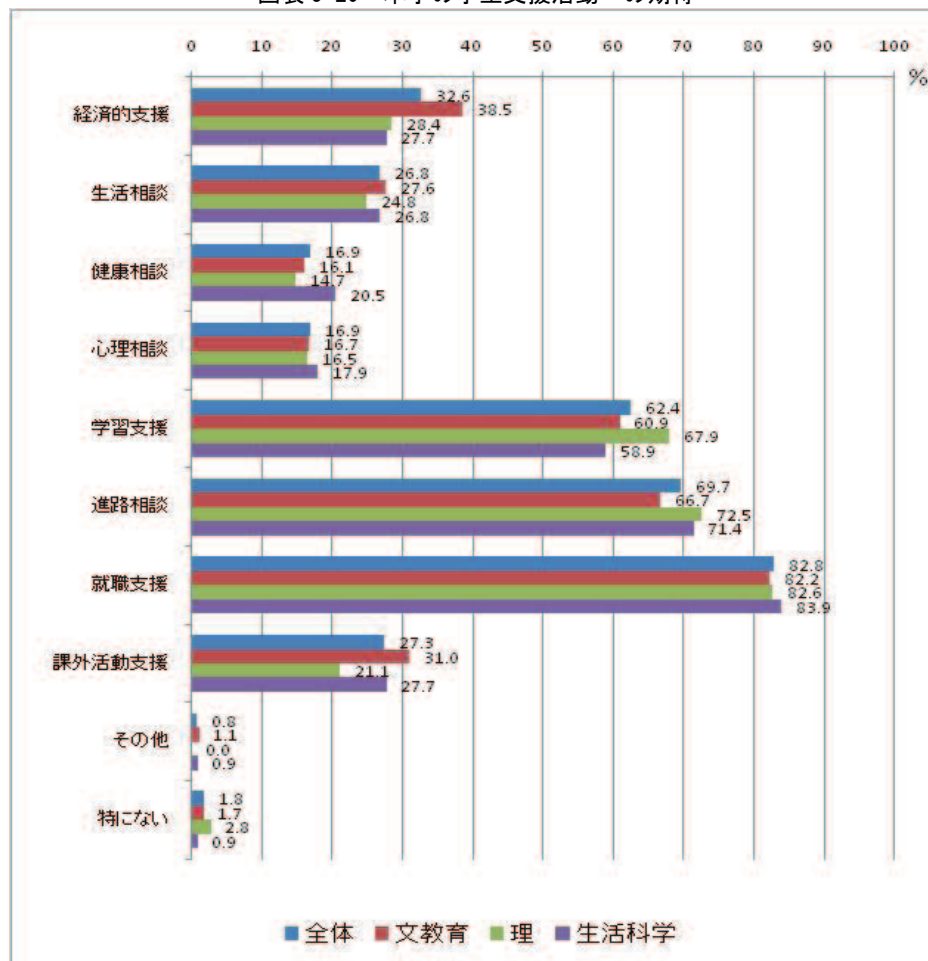
図表 5-19 卒業後ちゃんと就職できるか



⑪本学の学生支援活動への期待

図表 5-20 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねたものである。

図表 5-20 本学の学生支援活動への期待



全体でみると、「就職支援 (82.8%)」がもっとも多く、いずれの学部でもおよそ8割以上に及んでいる。ついで、「進路相談 (69.7%)」「学習支援 (62.4%)」が続いている。

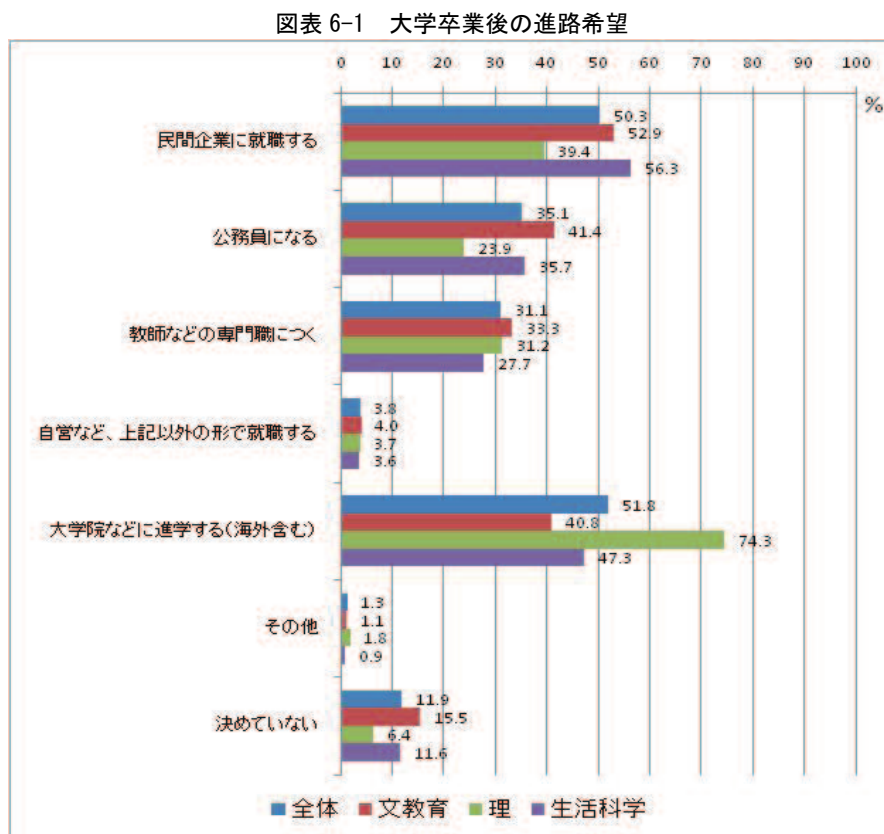
在学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」では、本学の学生支援活動で足りないところとして、「就職支援」や「進路相談」の高さが示されている（お茶の水女子大学 2011, P36-37）。新入生の期待からみても、在学生の不満からみても、本学の学生支援活動として、これらの支援には特に力を入れていくことが求められているといえるだろう。

(6) 将来の進路

本節では、本学新入生の将来の進路について、①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③将来の職業選択や就職にむけての取り組み、④就職や将来に関する親の関与から示していく。

①大学卒業後の進路希望

図表 6-1 は、大学卒業後の進路希望について、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を参考に、複数回答可として尋ねたものである。



全体でみると、「大学院などに進学する（海外含む）（51.8%）」がもっとも多いが、学部による差異が大きく、理学部では74.3%に及ぶ一方で、生活科学部や文教育学部では4～5割程度となっている（文教育学部40.8%、生活科学部47.3%）。

「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」によれば、本学に在学する学部生が大学入学時に「進学」を希望していたのは、理学部でも51.2%、生活科学部で24.9%、文教育学部で20.8%であり（お茶の水女子大学2011, P50）、今年度の入学者の進路希望とは大きな隔たりがみられる。

図表 6-1 からは、次いで、「民間企業に就職する（50.3%）」や「公務員になる（35.1%）」が続くことが示されている。これらは「大学院などに進学する（海外含む）」とは対照的に、理学部は他の学部比べて低い傾向がみられる（39.4%）。

なお、これらに続く「教師などの専門職につく（31.1%）」は、学部による大きな差異傾向はみられなかった。

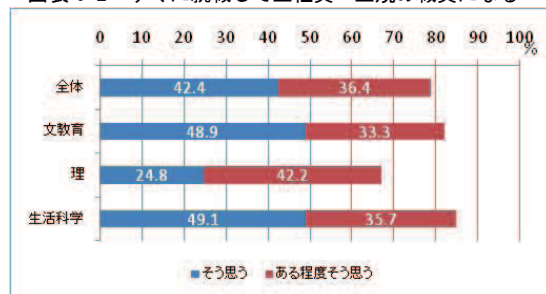
また、「決めていない」は、全体の11.9%であり、理学部では6.4%に過ぎないことから、大学入学時点で、卒業後の進路について、ある程度の希望を持っている者が大多数であることがうかがえる。

②大学卒業後のキャリアについての考え

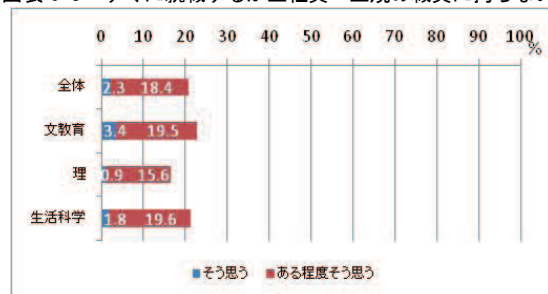
全国大学生調査コンソーシアム/東京大学大学経営・政策研究センターが2007年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する9項目について3件法で尋ね、その該当率（「そう思う」＋「ある程度そう思う」）を示した結果が、図表6-2から図表6-10である。

まず図表6-2から図表6-5は、「卒業後の就職」について尋ねた4項目についての結果である。

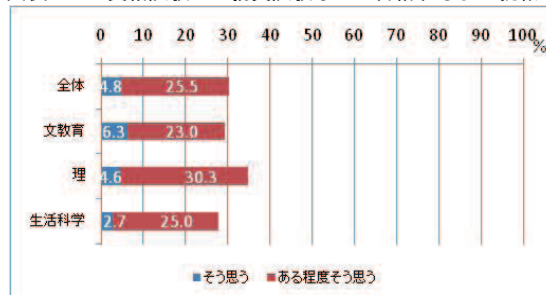
図表6-2 すぐに就職して正社員・正規の職員になる



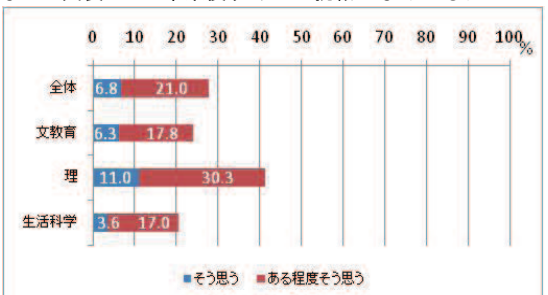
図表6-3 すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない



図表6-4 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない



図表6-5 卒業後すぐには就職しなくてもよい



「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」「卒業後すぐには就職しなくてもよい」の該当率は、学部による差異傾向がみられた。具体的には、他の学部比べて、理学部では「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」が低く（67.0%）、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」が高い傾向がみられる（41.3%）。

なお、「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」84.7%、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」37.7%、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」31.8%、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」30.8%であり、「すぐに就職するが正社員・正規の職員に拘らない」の本学新入生の該当率の低さがうかがえる。

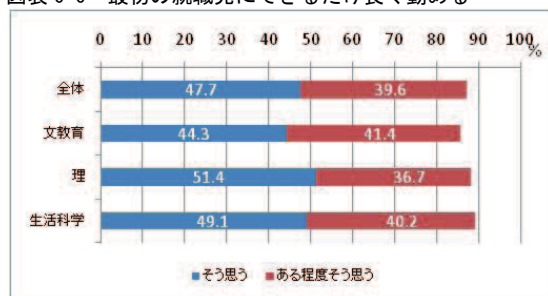
続いて、図表6-6から図表6-8は、「就職後の勤務・退職」について尋ねた3項目についての結果である。

いずれの項目も学部による該当率の差異傾向は大きくはみられず、全体でみれば、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」はおよそ9割に及んでいる（87.3%）。

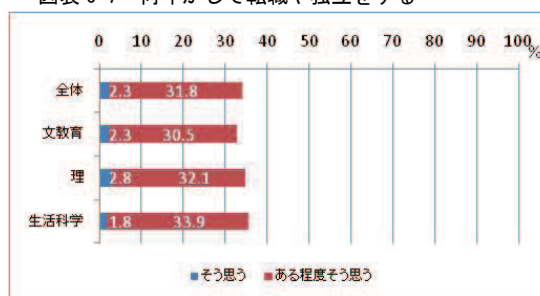
これに対して、「何年かして転職や独立をする（39.1%）」や「結婚・出産したら仕事をやめる（30.8%）」の該当率はさほど高くはなく、「そう思う」との回答は極めて少数であることも示されている。

なお、「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」83.3%、「何年かして転職や独立をする」55.1%、「結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）」38.1%であり、「何年かして転職や独立をする」の本学新入生の該当率の低さがうかがえる。

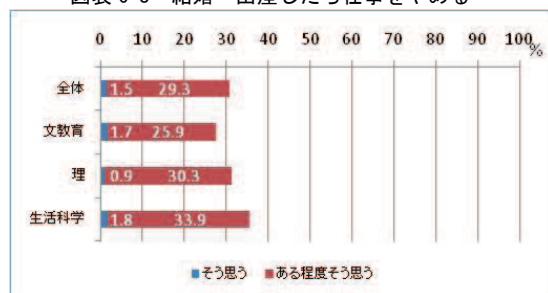
図表 6-6 最初の就職先にできるだけ長く勤める



図表 6-7 何年かして転職や独立をする

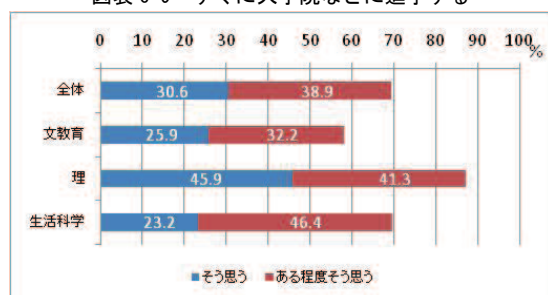


図表 6-8 結婚・出産したら仕事をやめる

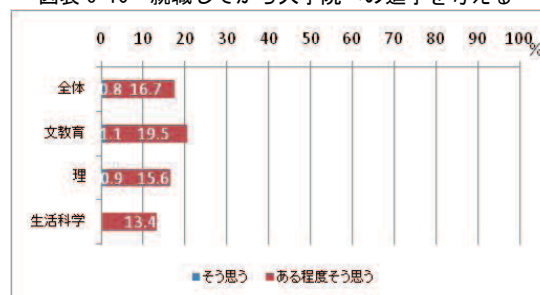


さいごに、図表 6-9 および図表 6-10 は、「卒業後・就職後の大学院進学」について尋ねた 2 項目についての結果である。

図表 6-9 すぐに大学院などに進学する



図表 6-10 就職してから大学院への進学を考える



「すぐに大学院などに進学する」は、全体で見ればおよそ 7 割（69.5%）であるが、学部により差異傾向があり、理学部は他の学部比べて高いことが明らかである（87.2%）。これに対し、「就職してから大学院への進学を考える」は、学部により大きな差異傾向はみられなかった。

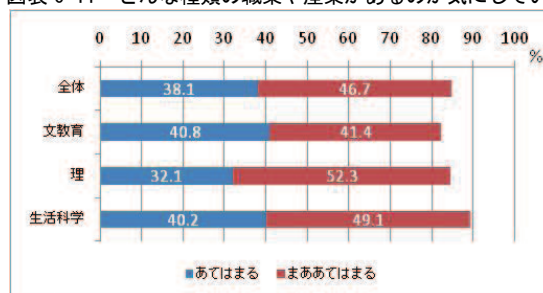
なお、「全国大学生調査」における各項目の該当率は、「すぐに大学院などに進学する」45.7%、「就職してから大学院への進学を考える」26.3%であり、「すぐに大学院などに進学する」の本学新入生の該当率の高さが、いずれの学部においてもうかがえる。

③将来の職業選択や就職にむけての取り組み

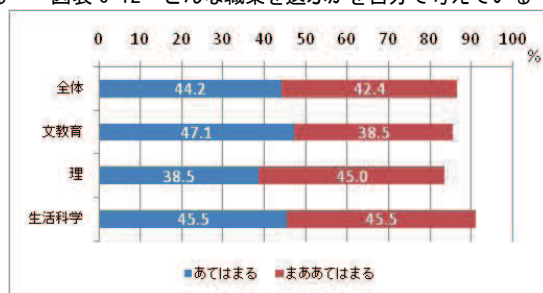
「将来の職業選択や就職にむけての取り組み」に関する 15 項目について 5 件法で尋ねた結果、全体で 70%を超える該当率（「あてはまる」＋「まああてはまる」）の項目は、以下の 5 項目であった（図表 6-11 から図表 6-15 参照）。

その結果、本学の新生は、就職や職業に対する関心が高く、その選択についての自律性も高い者が非常に多いことがうかがえる。

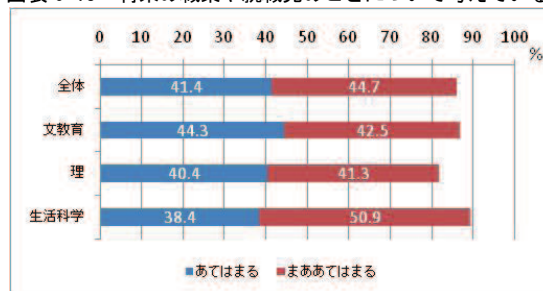
図表 6-11 どんな種類の職業や産業があるのか気にしている



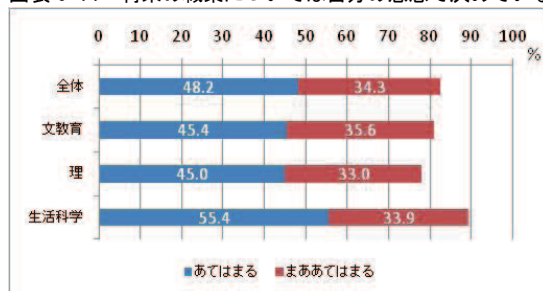
図表 6-12 どんな職業を選ぶかを自分で考えている



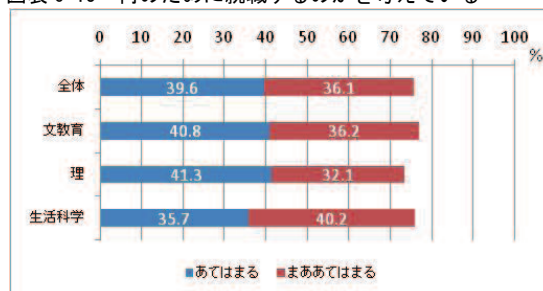
図表 6-13 将来の職業や就職先のことについて考えている



図表 6-14 将来の職業については自分の意思で決めている

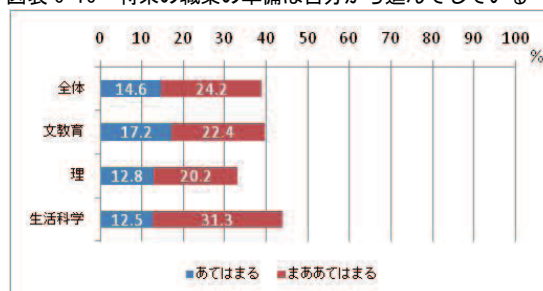


図表 6-15 何のために就職するのかを考えている

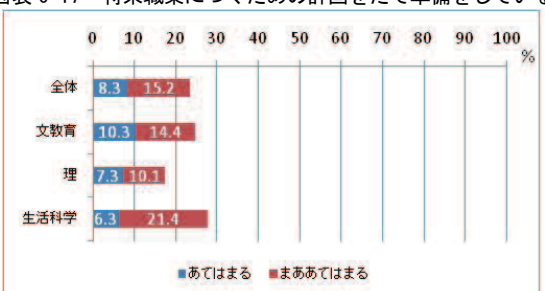


逆に、全体で50%以下の該当率の項目は、以下の5項目であった（図表 6-16 から図表 6-20 参照）。

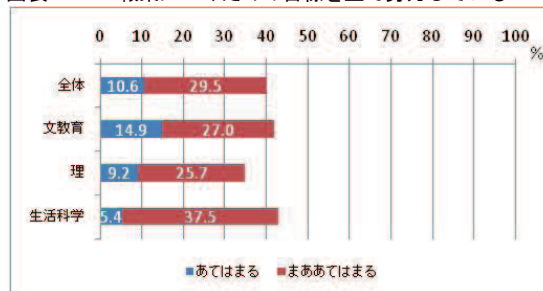
図表 6-16 将来の職業の準備は自分から進んでしている



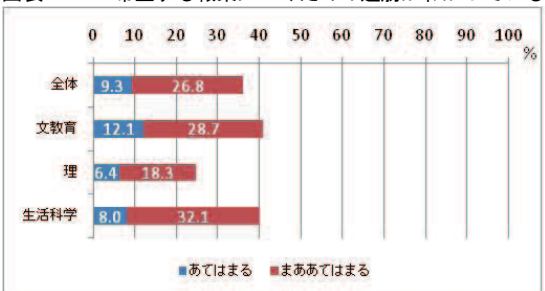
図表 6-17 将来職業につくための計画をたて準備をしている



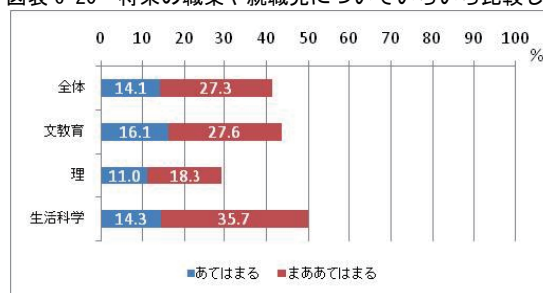
図表 6-18 職業につくための目標を立て努力している



図表 6-19 希望する職業につくための道筋がわかっている



図表 6-20 将来の職業や就職先についていろいろ比較し検討している

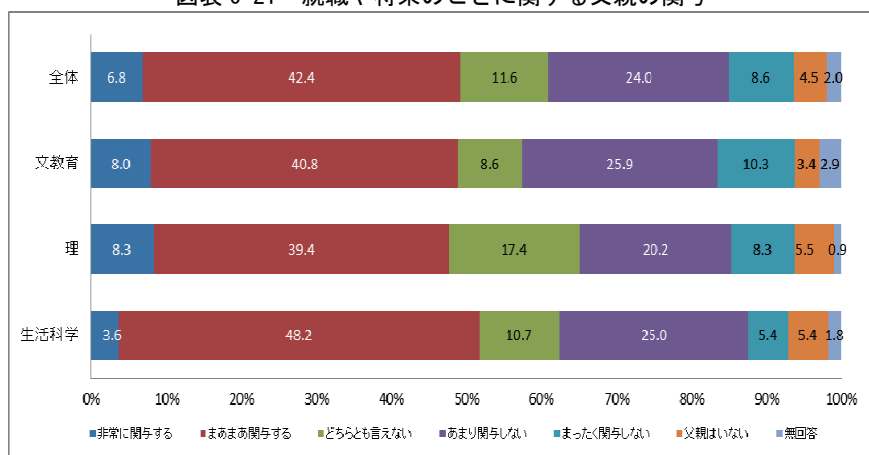


本学の新入生は、進学に対する道筋といった計画性や、それへの準備や努力が、他の取り組みに比べると低いことがうかがえる。特に、理学部では、他の学部比べて、こうした傾向がより強く示されている。

④就職や将来に関する親の関与

図表 6-21 は、就職や将来に関する父親の関与について、5 件法で尋ねた結果である。

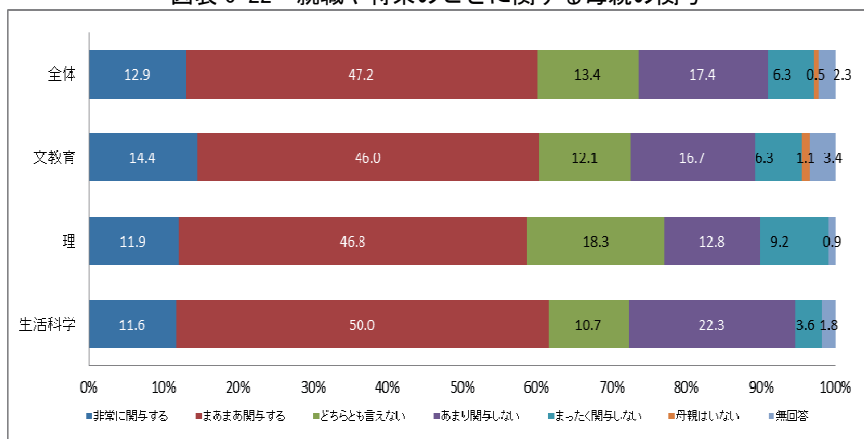
図表 6-21 就職や将来のことに関する父親の関与



本学の新入生は、全体の 49.2%が、就職や将来のことに関する父親の関与が「非常に」あるいは「まあまあ」あると回答しており、学部別にみても、その傾向に大差はみられず、いずれの学部でもおよそ5割に及んでいる。

図表 6-22 は、就職や将来の関する母親の関与について、5 件法で尋ねた結果である。

図表 6-22 就職や将来のことに関する母親の関与



本学の新入生は、全体の 60.1%が、就職や将来のことに関する母親の関与が「非常に」あるいは「まあまあ」と回答しており、学部別にみても、その傾向に大差はみられず、いずれの学部でもおよそ 6 割に及んでいる。